

各兵科大中少尉或相當陸地測量師

修技所教官
修技所助教

陸地測量手

第四條 部長ハ參謀總長ニ隸シ部事ヲ整理シ及陸地測量官養成ノ責ニ任ス

第五條 事務官ハ部長ノ命ヲ受ケ部内ノ庶務ヲ掌ル其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第六條 材料主管ハ部長ノ命ヲ受ケ器具材料及圖籍ノ整理ニ任シ其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第七條 軍吏ハ部長ノ命ヲ受ケ會計一般ノ規定ニ據リ部内ノ會計物品ノ購買供給ヲ掌リ其下ニ書記或ハ陸軍屬ヲ置ク

第八條 三角科ハ量地ノ事ヲ管シ三角測量及水準測量ヲ施行シ諸測量ノ基點ヲ設爲シ地形科ハ地形測量ヲ施行シテ原圖ヲ製造修正シ製圖科ハ諸地圖ヲ製造シテ製版印刷スルヲ掌ル

第九條 修技所ハ陸地測量官ヲ養成スルノ所ニシテ測量手タル學生及生徒ヲ置ク其教授科目ハ陸地測量部長之ヲ定ム

第十條 科長ハ部長ノ指揮監督ヲ受ケ班長以下ニ職務ヲ課シ各其科ノ整理ニ任ス

第十一條 科僚ハ科長ノ命ヲ受ケ科内ノ庶務ヲ掌リ其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第十二條 班長ハ科長ノ命ヲ受ケ其班員以下ニ職務ヲ課シ各班ノ事業ヲ管理ス

第十三條 班員ハ上官ノ命ヲ受ケ各其業務ヲ分掌ス

第十四條 科長及班長ハ陸地測量官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十五條 修技所幹事ハ部長ノ命ヲ受ケ學生及生徒ノ養成ニ任シ所内ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士或ハ陸地測量手ヲ置ク

第十六條 修技所教官及助教ハ部長ノ命ヲ受ケ學術科ノ教授ヲ分掌ス

第十七條 修技所教官ハ定員ノ外他ニ本職アル者ヲ以テ兼勤セシメ若クハ學識アル者ヲ選ヒテ之ニ囑

托スルヲ得

第五節 教育總監部

● 教育總監部條例 明治三十三年四月 勅令第百五十七號

改正 明治三十四年十月 勅令第百九十四號 ● 明治三十五年十二月 勅令第百七十三號

朕教育總監部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教育總監部條例

- 第一條 教育總監部ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍全般教育ノ齊一進歩ヲ規畫スル所トス
- 第二條 教育總監ハ陸軍大將若クハ陸軍中將ヲ以テ之ニ親補シ
天皇ニ直隸ス
- 第三條 教育總監ハ各兵監ヲ統督シ陸軍砲工學校陸軍士官學校陸軍中央幼年學校陸軍地方幼年學校陸軍戸山學校並ニ陸軍將校生徒試驗委員ヲ管轄ス
- 第四條 教育總監部ニ幕僚及騎砲工輜重兵監部ヲ置ク
- 第五條 參謀長ハ教育總監ヲ輔佐シ幕僚ヲ統ヘ事務整理ノ責ニ任ス
- 第六條 幕僚將校及軍吏ハ參謀長ノ下ニ在リテ事務ニ服ス
- 第七條 騎兵監ハ各騎兵團隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍騎兵實施學校ヲ管轄ス
- 第八條 野戰砲兵監ハ各野戰砲兵團隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又野戰砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍野戰砲兵射擊學校ヲ管轄ス
- 第九條 要塞砲兵監ハ各要塞砲兵隊ノ教育上本科專門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又要塞砲兵ニ關

スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍要塞砲兵射擊學校ヲ管轄ス
 第十條 工兵監ハ各工兵隊ノ教育上本科専門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍電信教導大隊ヲ管轄ス
 第十一條 輜重兵監ハ各輜重兵隊ノ教育上本科専門ノ事ニ就キ齊一進歩ノ責ニ任シ又本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ竝ニ立案スルコトヲ掌ル
 第十二條 野戰砲兵監、要塞砲兵監及工兵監ハ砲工學校ヲ巡閱シ各本科學生ノ教育上ニ就キ意見アルトキハ之ヲ教育總監ニ具申スヘシ
 第十三條 各兵監ハ主管ノ事項ニ就キ當該兵科ノ團隊ヲ檢閲シ之ニ關スル意見ヲ團隊長ニ訓示シ檢閲終レハ其ノ實況ヲ教育總監ニ報告スヘシ
 第十四條 各兵監部員ハ各其兵監ノ下ニ在リテ事務ヲ分擔ス
 第十五條 教育總監部ノ編制ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第六節 都督部

都督部條例

明治三十三年四月勅令第百五十六號

朕都督部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

都督部條例

第一條 都督部ハ之ヲ東京ニ置キ其所管區分左ノ如シ
 東部都督部 第一、第二、第七及第八師管
 中部都督部 第三、第四、第九及第十師管
 西部都督部 第五、第六、第十一及第十二師管
 第二條 都督ハ陸軍大將若クハ陸軍中將ヲ以テ之ニ親補シ
 天皇ニ直隸シ所管ノ防禦計畫ニ任シ又國防ノ事ニ參與ス但シ防禦計畫ニ關シ特ニ規定アルモノハ此限ニアラス
 第三條 都督ハ勅ヲ奉シ團隊ノ檢閲ヲ行フ
 第四條 都督ハ勅ヲ奉シ二師團以上ノ演習ヲ統監シ又ハ特別大演習ノ一軍ヲ指揮ス
 第五條 都督ハ主任ノ事ニ關シ所管内ノ各師團長ニ訓令若クハ訓示ヲ與ヘ且必要ノ報告ヲ爲サシムルヲ得
 第六條 都督ハ軍政及人事ニ關シテハ陸軍大臣、防禦計畫ニ關シテハ參謀總長ノ區處ヲ受ク
 第七條 都督部ニ幕僚ヲ置キ之ヲ參謀部副官部ニ分ツ
 第八條 參謀長ハ都督ヲ補佐シ幕僚ヲ統ヘ事務整理ノ責ニ任ス
 第九條 幕僚ノ各將校及軍吏ハ參謀長ノ區處ヲ受ケ部務ヲ擔任ス

第七節 師團

師團司令部條例

明治二十九年五月
勅令第二百五號

改正

●明治二十九年十二月
勅令第三百九十九號
●明治三十一年二月
勅令第三十二號

●明治三十四年十月
勅令第九十五號
●明治三十五年一月
勅令第十七號

●明治三十五年六月
勅令第七十一號

朕師團司令部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

師團司令部條例

第一條 師團長ハ陸軍中將ヲ以テ之ニ親補シ

天皇ニ直隸シ部下軍隊ヲ統率シ又師管内ノ聯隊區司令部ヲ管轄シ軍事ニ係ル諸件ヲ總理ス

第二條 師團長ハ其主管ニ係ル各部團隊ノ動員計畫ヲ掌リ又師管内徵兵事務並ニ召集事務ヲ統轄ス

前項ノ外近衛師團長ハ宮闕守衛ノ事ニ任シ第七師團長ハ屯田兵ヲ統率シ其ノ開墾耕稼ノ事ヲ掌ル

第三條 師團長ハ部下軍隊ノ練成ニ就テ其責ニ任ス但騎砲工輜重兵科専門ノ事ハ當該兵監ノ責任ニ屬ス

第四條 師團長ハ防務條例ノ規定ヲ除クノ外師管内ノ防禦及陸軍諸官廳諸建築物ノ保護ニ任ス

地方長官地方ノ靜謐ヲ維持スルカ爲メ兵力ヲ請求スル時時事急ナレハ直ニ之ニ應スルコトヲ得其ノ事

地方長官ノ請求ヲ待ツノ違ナキトキハ兵力ヲ以テ便宜處置スルヲ得

前項ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ陸軍大臣參謀總長ニ報告ス

第五條 疾疫其他非常ノ場合ニ際シ師團長一時其部下軍隊ヲ移轉セントスル時時急ヲ要スレハ之ヲ實行

シテ後報告スルコト前條末項ニ同シ

第六條 師團長ハ其師管内ニ在ル陸軍諸隊近衛師團ヲ除ク及諸官廳ニ於ケル軍紀風紀ヲ統監シ軍法會議ヲ管轄ス

第七條 師團長ハ兵器彈藥ニ關スル事ニ就テハ兵器支廠長ニ命令スルノ權ヲ有ス

第八條 師團長ハ軍政及人事ニ關シテハ陸軍大臣勳員計畫作戦計畫ニ關シテハ參謀總長教育ニ關シテハ教育總監防禦計畫ニ關シテハ當該都督ノ區處ヲ受ク

第九條 師團長ハ騎砲工輜重兵科専門ノ事ニ就キ意見アレハ之ヲ當該兵監ニ告知スルコトヲ得

第十條 師團長ハ陸軍軍隊檢閲條例ニ據リ檢閲ヲ行フ

第十條ノ一 師團長ハ隨時部下ノ團隊及官衙ヲ檢閲シ毎年概テ軍隊教育期ノ終リニ檢閲ノ實況及意見ヲ奏上シ且陸軍大臣參謀總長及教育總監ニ報告スヘシ

第十一條 師團司令官ハ左ノ各部ヨリ成ル

- 一 參謀部
- 二 副官部
- 參謀部及副官部ヲ合シテ特ニ幕僚ト稱ス

三 法官部

四 經理部

五 軍醫部

六 獸醫部

師團經理部ノ組織權限ハ別ニ條例ヲ以テ之ヲ定ム

近衛師團司令部ニ在リテハ法官部ヲ置カス

第十二條 參謀長ハ幕僚ノ事務ヲ統監シ師團長ニ對シテ事務整理ノ責ニ任ス

第十三條 幕僚ノ各將校ハ參謀長ノ監視ヲ受ケ各自擔任ノ事務ヲ掌リ其師團長ニ具申スヘキ事ニ就テハ先ツ參謀長ノ承認ヲ得ヘキモノトス

第十四條 法官部長軍醫部長及ヒ獸醫部長ハ各其ノ主任ノ事ニ就キ事務整理ノ責ニ任ス各部長及兵器支廠長ヨリ師團長ニ具申スヘキ事ニ就テハ先ツ參謀長ニ開陳スヘシ

● 師團司令部幕僚服務規則

明治二十九年十一月
陸軍省令第百六十七號

師團司令部幕僚服務規則左ノ通定メラル

師團司令部幕僚服務規則

第一條 師團司令部幕僚ノ將校及同相當官ハ師團司令部條例ニ掲クルモノ、外本規則ノ定ムル所ニ從ヒ各其擔任ノ事務ニ服スヘシ

第二條 參謀長ハ師團長ノ機務ニ參畫シ直接ニ之ヲ補佐シ其命令ノ普及並ニ之カ實施ヲ監督スヘシ

第三條 參謀長ハ幕僚ノ事務細則ヲ規定スルヲ得但師團長ノ承認ヲ受クルヲ要ス

第四條 參謀長ハ其事務ニ關シ先規定例アルモノハ主務官ヲシテ直ニ之ヲ處理セシメ否ラサルモノハ案ヲ具シテ師團長ニ上申スヘシ但輕易ナル事項ハ決行後報告スルヲ得

第五條 參謀長ハ陸軍省、參謀本部、監軍部及關係アル都督部ノ主務官ト常ニ相通報シ事情ニ疎隔ナキコトヲ期スヘシ

東京防衛總督部ト關係アル參謀長ハ其主務官ト相通報スルコト前項ニ同シ

第六條 參謀ハ各其分掌事務ニ就キ整理ノ責ニ任ヌ其分掌スヘキ所要ノ事項左ノ如シ

其一 師團ノ主管ニ係ル勳員計畫及作戰計畫

其二 軍隊ノ練成

其三 地理政誌及運輸交通

前諸項ニ掲クルモノ、外第七師團ニ在リテハ屯田兵配布地撰定ノ事ヲ掌ル

第七條 高級副官ハ副官部ノ庶務及部内會計經理ヲ總轄シ其整理ノ責ニ任シ且ソ司令部ノ取締ニ任ヌヘシ

第八條 高級副官ハ其事務ニ關シ先規定例アルモノハ直ニ之ヲ處理シ又ハ主務ノ副官ヲシテ之ヲ處理セシメ否ラサルモノハ案ヲ具シテ參謀長ニ上申スヘシ但輕易ナル事項ハ決行後報告スルヲ得

第九條 高級副官ハ日々諸向ヨリ到達ノ文書ヲ點檢シ其事項ヲ分テ主務官ニ配當スヘシ

第十條 副官ハ各自分掌ノ事務ニ就キ整理ノ責ニ任ス其分掌スヘキ主要ノ事項左ノ如シ

其一 日令、報告、衛戍勤務及軍隊內務

其二 文書ノ往復及圖書ノ保管

其三 現役並在郷軍人ニ關スル事項

其四 徵兵召集徵發ニ關スル事項

其五 兵器、彈藥、被服、馬匹、器具、材料等ニ關スル事項

前諸項ニ掲クルモノ、外近衛師團ニ在リテハ官關子衛勤務第七師團ニ在リテハ屯田兵ノ徵募、補充、授産、稼穡及其家族ニ關スル事ヲ掌ル

第十一條 參謀及副官ノ主務前掲ノ如ク之ヲ分ツモ常ニ互ニ連絡シ事務ノ結果ヲシテ一致セシムルヲ要ス

第十二條 參謀副官ノ内一名及書記一名ヲシテ師團司令部ニ直セシメ退團後ノ事務及部内ノ取締ニ任セシムヘシ但將校ノ宿直ハ形勢之ヲ許ストキハ師團長之ヲ宅直ト爲ヌヲ得

第十三條 軍吏ハ高級副官ノ命ヲ受ケ經理一般ノ定則ニ據リ部内ノ會計經理事務ニ服ス

第十四條 書記及製圖手ハ各其上官ノ命ニ從ヒ分掌ノ事務ニ服ス

● 理事錄事服務概則 明治二十一年五月 陸軍省令第百二十號

改正 ● 明治二十四年四月 陸軍省令第百二十九號

理事錄事服務概則左ノ通定ム

理事錄事服務概則

第一條 各師團屯田兵出任ノ理事理事試補錄事ハ陸軍治罪法ニ從ヒ軍法會議ノ事務ニ服ス

第二條 各法官部ニ主事ヲ置キ上席理事ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 主事ハ所屬長官ノ法律ニ關スル諮問ニ對フルノ責ニ任シ且軍法會議ノ庶務ヲ管理ス

第四條 主事ハ理事ニ被告事件ヲ分配シ錄事ノ分掌ヲ定メ又本官ヲ以テ自ラ被告事件ヲ擔當ス

第五條 主事ハ理事以下ノ勤惰學術能否操行等ヲ獎勵視察シ每歲所見ヲ本屬長官ニ具申ス可シ

第六條 主事事故アリ若クハ不在ノ時ハ理事中席次ノ上ナルモノ其職務ヲ攝行ス可シ

第七條 錄事ハ第一條ニ掲クル所ノ外軍法會議ノ書類ヲ保存シ且軍法會議ノ庶務ニ服ス

第八條 理事以下各自ノ一身上ニ關スル顧問書等本屬長官ニ呈スルト所屬長官ニ呈スルト別タ主事ヲ經由ス可シ主事自己ノ身上ニ係ル者ハ直ニ之ヲ進達ス可シ

師團軍醫部服務規則

明治二十九年十月
陸軍省令第百四十五號

師團軍醫部服務規則左ノ通定メラル

但明治二十一年陸軍省令第百二十二號及明治二十四年陸軍省令第百五十一號ヲ廢止セラル

師團軍醫部服務規則

- 第一條 軍醫部長ハ師團長ニ隸シ師團及師管内ノ官術學校並要塞砲兵隊警備隊等ノ衛生事務ヲ管理シ且衛生部員ノ勤務ヲ監督ス
 - 第二條 軍醫部長ハ師團長ニ隸スト雖モ所管内ノ衛生事業及衛生部ノ教育、下士以下補充等ノ事ニ關シテハ陸軍省醫務局長ノ區處ヲ受ク
 - 第三條 軍醫部長ハ勲員計並ニ基キ衛生部ノ人員調査及戰用衛生材料ノ整備ニ任ス
 - 第四條 軍醫部長ハ師團長ノ命ヲ受ケ毎年一回所管ノ部隊官術學校ヲ含テヲ巡閱シ衛生ノ狀況、醫務ノ整否、教育ノ精粗等ヲ査察シ之ヲ師團長官術學校ニ在リ及陸軍省醫務局長ニ報告ス
 - 第五條 軍醫部長ハ所管ノ衛生部上長官士官ヲ會シ必要ノ事項ヲ審議スルコトヲ得但師團司令部所在地外ノ者ヲ召集スルノ必要アルトキハ師團所轄ノモノニ在テハ師團長其他ニ在テハ當該長官ノ承認ヲ經ルモノトス
 - 第六條 軍醫部長ハ所管ノ軍隊及官術學校等ニ於テ事務繁劇又ハ衛生部員ノ疾病不在等ニ依リ事務上支障アリト認ムルトキハ他ノ部隊附衛生部員ニ補助勤務ヲ命スルコトヲ得但師團司令部所在地外ニ涉ルトキハ師團長若クハ當該長官ノ承認ヲ經ルモノトス
- 東京ニ於テ前項補助ヲ要スルトキハ近衛師團軍醫部長及第一師團軍醫部長協議ノ上互ニ補助セシムルコトヲ得

第七條 軍醫部長ハ其ノ管掌ノ事務ニ關シ軍隊及ヒ官衙學校等ニ直接照會スルコトヲ得

第八條 軍醫部長不在ノトキハ師團司令部所在地ノ衛戍病院長之カ代理ヲナスモノトス

第九條 軍醫部部長ハ軍醫部長ノ命ヲ受ケ其部務ニ服ス

第十條 前各條ノ外軍醫部ニ於テハ尙ホ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 防疫、治病及氣象、建築、被服、糧食、給水、排水等ノ衛生ニ關スル事項
- 二 身體検査、恩給診斷、傷疾疾病ニ因ル服役免除及斷訟醫事ニ關スル事項
- 三 平時及戰時ニ於ケル衛生部ノ人員及衛生材料ニ關スル事項
- 四 衛生統計及衛生報告ニ關スル事項
- 五 師管内ニ於ケル醫師、藥劑師及地方病院、溫泉場並地方衛生材料其他地方衛生ニ關スル事項

附 則

第十一條 第七師團軍醫部ニ在ツテハ前各條ノ外屯田兵各隊ニ要スル衛生材料ノ配與及器械ノ修理交換等ノ事ヲ掌ル

第十二條 臺灣守備混成旅團軍醫部ノ服務ハ本規則ニ準據ス但醫務局長ニ進達シ又ハ同局長ノ區處ヲ受クヘキ事項ハ臺灣總督府軍務局陸軍部第四課長ヲ經由スルモノトス

師團獸醫部服務規則

改正 明治三十一年十月 陸軍省令第百二十四號

明治二十九年七月 陸軍省令第百二十四號

師團獸醫部服務規則

第一條 獸醫部長ハ獸醫ノ管掌スヘキ諸般ノ事項ヲ統轄ス

第二條 獸醫部長ハ隊附獸醫ノ勤務ヲ監督シ軍馬ノ衛生ヲ贊助ス殊ニ疾病並蹄鐵ノ事ニ就テハ擔保ノ責ニ任ス

第三條 獸醫部長ハ隊附獸醫學術ノ進歩ヲ圖リ蹄鐵術ノ發達ヲ促シ蹄鐵工長以下ノ教育ヲ監督ス而シテ其事ニ就テハ陸軍省軍務局長ノ區處ヲ受ク

第四條 獸醫部長ハ戰用獸醫材料蹄鐵器具並蹄鐵ノ整理ニ參與ス

第五條 獸醫部長ハ動員計畫ノ必要ニ應スルカ爲メ平素師管内獸醫蹄鐵工ノ開業免狀ヲ有スル者並前條ニ掲クル材料器具等ノ資源ヲ調査ス

第六條 獸醫部長ハ軍隊ニ於ケル屠獸及屠肉ノ検査ヲ監督ス

第七條 獸醫部長ハ必要ニ應シ隊附獸醫ヲ會合セシムルニトヲ得

第八條 獸醫部長ハ隊附獸醫ノ缺員不在若クハ疾病事故等ニテ本務ヲ缺クトキハ他ノ隊附獸醫ヲシテ代務セシム尙ホ東京ニ在テハ近衛及第一師團ノ獸醫部長協議ノ上相互ニ代務セシムルコトヲ得

第九條 獸醫部長ハ管掌ノ事務ニ關シ軍隊官衙校團並地方官衙ニ直接照會スルコトヲ得

第十條 獸醫部長不在ノトキハ部員若クハ隊附獸醫ノ内高級古參ノ者其事務ヲ代理ス

第十一條 部員ハ獸醫部長ノ命ヲ受ケ部務ニ服ス

附則

第十二條 臺灣陸軍戰務部ノ服務ハ本規則ニ準據ス

● 師團經理部條例

明治三十五年一月
勅令第十八號

朕師團經理部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

師團經理部條例

第一條 師團經理部ハ師團ニ係ル會計經理一切ノ事項ヲ管掌シ師團内各部團隊ノ會計事務ヲ監督ス
師團經理部ハ必要ニ際シ其ノ派出所ヲ置クコトヲ得

第二條 師團經理部ニ左ノ職員ヲ設ク

部長

部員

准士官下士並判任文官技手

第三條 部長ハ師團長ニ隸シテ部務整理ノ責ニ任シ會計經理上ノ行務ニ關シテハ陸軍省經理局長ノ區
處ヲ受ク

第四條 部長ハ師團内各部團隊ノ會計經理ノ検査ヲ行フヘシ

第五條 部長ハ師團内各部團隊ノ廢品處分ヲ承認ス但シ當該長官ニ之ヲ分任スルコトヲ得

第六條 部長ハ會計上ニ關シ必要アルトキハ當該長官若ハ主任官吏ニ質問シ辨明ヲ求ムルコトヲ得

第七條 部長ハ師團長ノ許可ヲ得テ師團内各部團長ノ經理委員ヲ集メ經理會議ヲ開クコトヲ得

第八條 部長ハ其ノ管掌ノ事務ニ關シ各部隊諸官廳ニ直接照會スルコトヲ得

第九條 部員ハ部長ノ命ヲ受ケ部務ヲ分掌ス

第十條 准士官以下ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

附則

本令ハ明治三十五年二月一日ヨリ施行ス
明治二十五年勅令第三百三號明治二十九年勅令第五百十七號及同年勅令第二百四十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

● 師團法官部及臺灣陸軍法官部ニ陸軍警守ヲ置クノ件

明治三十五年三月勅令第八十五號

朕師團法官部及臺灣陸軍法官部ニ陸軍警守ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 師團法官部及臺灣陸軍法官部ニ陸軍警守ヲ置ク

陸軍警守ハ判任官待遇トス

第二條 陸軍警守ハ陸軍軍法會議法庭ノ警衛、書類ノ送達並被告人ノ護送及看守ニ任ス

第三條 陸軍警守其ノ職務ニ服スルトキハ刀ヲ帶ヒ制服ヲ著スヘシ

第四條 陸軍警守採用ニ關スル規程ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 陸軍懲治隊條例

明治三十五年十月
勅令第二百二十一號
(明治三十五年十一月一日ヨリ施行セラル)

朕陸軍懲治隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍懲治隊條例

- 第一條 陸軍懲治隊ハ陸軍兵卒ノ屢禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ懲罰ノ處分ヲ受クルモ容易ニ改悛ノ狀ナキ者ヲ收容シテ懲治スル所トス
- 第二條 懲治隊ハ之ヲ姫路ニ置キ第十師團長之ヲ管轄シ陸軍大臣ノ監督ニ屬ス
- 第三條 懲治隊ニ左ノ職員ヲ置ク

隊長

隊附士官

軍醫

准士官下士

下士ハ豫備役後備役ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得

第四條 懲治隊ニハ隊附トシテ所要ノ兵卒ヲ置ク

第五條 隊附下士ノ約半數及兵卒ハ各師團ヨリ行狀方正勤務勉勵ニシテ能ク其ノ任ニ堪ユヘキ者ヲ選ヒ派遣セシム其ノ任期ハ下士ニ在リテハ二年半以内兵卒ニ在リテハ一年以内トス

第六條 懲治隊ニ收容シテ懲治スル者ハ之ヲ懲治卒ト稱シ原隊ノ定員内トス

第七條 隊長ハ師團長ニ隸シ隊務ヲ掌理シ懲治卒ヲ悔悛改悛セシムルノ責ニ任ス

第八條 隊附士官及軍醫ハ隊長ノ命ヲ受ケ隊務ニ服ス

第九條 准士官下士ハ隊長及隊附士官ノ命ヲ受ケ隊務ニ服ス

第十條 懲治隊ハ適宜之ヲ數班ニ分テ各班ニハ隊附士官以下ヲ配屬シ懲治卒ノ懲治教育等ヲ分掌セシム

第十一條 懲治卒ハ總テ歩兵ノ術科ヲ演習セシム

第十二條 懲治卒ハ衛兵ノ勤務ニ服セシメス

第十三條 懲治卒ニ兵器ヲ携帶セシムルハ演習中必要ノ場合ニ限ル

第十四條 懲治卒ノ衣ハ其ノ袖章ヲ除去ス

第十五條 懲治卒ハ演習時間外ニ於テ軍部ノ勞役ニ就カシムルモノトス但シ時宜ニ依リ演習時間内ニ於テ之ヲ科スルコトヲ得

勞役ニ就カシメタルトキハ其ノ性質ニ因リ特ニ若干ノ金錢ヲ給スルコトヲ得其ノ金額ハ師團長ノ認可ヲ經テ隊長之ヲ定ム但シ其ノ日額ハ懲治卒日給額ノ半ヲ超過スルコトヲ得ス

第十六條 懲治卒ニ屬スル金錢ハ隊長之ヲ領置シ其ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十七條 懲治卒ハ外出ヲ許サス但シ特ニ隊長ニ於テ其ノ必要ヲ認ムルトキハ幹部ノ引率ヲ以テ外出セシムルコトヲ得

第十八條 懲治卒ニハ休暇ヲ與ヘス但シ父母ノ疾病危篤若ハ死亡等事情止ムヲ得サル者ニ限リ隊長ハ師團長ノ認可ヲ受ケ特ニ短期ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

第十九條 聯(大)隊長ハ部下兵卒中懲治隊ニ於テ懲治スル必要ヲ認メタル者アルトキハ其ノ事由書ヲ具シ順序ヲ經テ所屬師團長ニ上申スヘシ

第二十條 師團長ハ前條ノ上申ヲ審査シ至當ト認メタルトキハ一切ノ書類ニ意見書ヲ附シ陸軍大臣ニ稟申シ陸軍大臣ヨリ懲治隊ニ編入ノ命令ヲ受クレハ隊長ニ命シ適宜ノ監視員ヲ附シテ常該兵卒ヲ懲

治隊ニ送致セシメ同時ニ陸軍大臣ニ稟申シタル書類ノ寫ヲ懲治隊長ニ送付スヘシ

第二十一條 隊長ハ懲治卒中改悛ノ狀顯著ニシテ懲治隊ニ置クノ必要ヲ認メサル者アルトキハ之ヲ原隊ニ復歸セシムル爲意見書ニ第二十四條ノ行狀錄ノ寫ヲ添ヘ師團長ヲ經テ陸軍大臣ニ稟申シ陸軍大臣ヨリ復歸ノ命令ヲ受クレハ之ヲ本人ノ所屬師團長ニ通報シ且本人ヲ原隊ニ復歸セシムヘシ

第二十二條 懲治卒中現役滿期ニ達スル者アリタルトキハ隊長ハ直ニ之ヲ歸郷セシメ師團長ヲ經テ陸軍大臣ニ報告シ且本人ノ所屬師團長ニ通報スヘシ

第二十三條 懲治隊ヘ分遣ノ下士兵卒ニ在リテハ武器、被服ヲ懲治卒ニ在リテハ被服ヲ各所屬隊ヨリ携行セシム

第二十四條 懲治隊ニハ各懲治卒ノ行狀錄ヲ備ヘ賞罰及其ノ他ノ狀況ヲ詳録スヘシ

第二十五條 懲治卒ノ取締ニ關スル細則ハ師團長ノ認可ヲ受ケ隊長之ヲ定ムヘシ

附則

本條例施行ノ期日ハ陸軍大臣之ヲ定ム

●第八節 旅團

●旅團司令部條例

明治二十九年三月
勅令第五十四號

改正

●明治三十二年十月
勅令第四百十四號

●明治三十六年十二月
勅令第十號

朕旅團司令部條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

旅團司令部條例

第一條 旅團長ハ少將ヲ以テ之ニ補シ部下聯隊ヲ統率ス

第二條 聯隊内ノ訓練、風紀、軍紀、將校ノ教育、内務經理及動員計畫ノ事ハ聯隊長ノ責任ニシテ旅團長之ヲ統監ス

第三條 旅團長ハ旅團ヲ以テスル訓練ニ任ズ

步兵旅團長ハ當該旅管ニ於ケル聯隊區司令部、沖繩警備隊區司令部ノ徵兵事務ヲ監督ス

第四條 步兵旅團長ハ騷擾變亂ノ事アルニ際シ地方長官ヨリ兵力ヲ請求スルトキ事急ニシテ指揮ヲ請フノ暇ナキトキハ直ニ之ニ應シテ後師團長ニ報告スヘシ

第五條 副官ハ司令部一般ノ事務ニ服シ且ツ會計ノ事ヲ管理ス

第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ記註計算ノ事ニ從フ

附則

第七條 本條例ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

警備隊司令部 第二十二次改定 第一〇二號 第一〇二號

第六條 司令官ハ警備隊區内ノ徵兵事務及召集事務ヲ掌ル

第五條 司令官ハ警備隊區内ニ現在スル在郷陸軍軍人及補充兵役ニ在ル者ノ身上異動其ノ他願届ニ關スル一切ノ事ヲ管理ス

第四條 司令官ハ警備隊區内ノ徵兵事務及召集事務ヲ掌ル

第三條 司令官ハ警備隊ノ軍紀風紀訓練教育内務經理及助員計畫ヲ統監シ又教育上重要砲兵専門ノ事ハ當該兵監ニ告知スヘシ

第二條 司令官ハ第十二師團長ニ隷シ在島陸軍諸隊ヲ統率シ警備隊區内ノ警備保護ニ任ス

第一條 對馬警備隊司令部ニ左ノ職員ヲ置ク

- 司令官
- 參謀
- 副官
- 部員
- 副監督
- 准士官下士及判任文官

第九節 警備隊司令部

對馬警備隊司令部條例

明治三十六年四月 勅令第八十號

對馬警備隊司令部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

對馬警備隊司令部ニ左ノ職員ヲ置ク

- 司令官
- 參謀
- 副官
- 部員
- 副監督
- 准士官下士及判任文官

准士官下士及判任文官

第二條 司令官ハ第十二師團長ニ隷シ在島陸軍諸隊ヲ統率シ警備隊區内ノ警備保護ニ任ス

第三條 司令官ハ警備隊ノ軍紀風紀訓練教育内務經理及助員計畫ヲ統監シ又教育上重要砲兵専門ノ事ハ當該兵監ニ告知スヘシ

第四條 司令官ハ警備隊區内ノ徵兵事務及召集事務ヲ掌ル

第五條 司令官ハ警備隊區内ニ現在スル在郷陸軍軍人及補充兵役ニ在ル者ノ身上異動其ノ他願届ニ關スル一切ノ事ヲ管理ス

第六條 司令官ハ騷擾變亂ノ事アルニ際シ地方長官ヨリ兵力ヲ請求スルトキ事急ニシテ指揮ヲ請フハ暇ナキトキハ直ニ之ニ應ヌヘシ但シ極メテ火急ノ場合ニ在リテハ地方長官ノ請求ヲ待タヌ自ラ兵力

ヲ以テ便宜處置スルコトヲ得
前項ノ場合ニ在リテハ事後直ニ之ヲ師團長ニ報告スヘシ

第七條 司令官ハ在島要塞ノ防禦計畫ヲ擔任シ要塞備附ノ兵器器具材料及防禦營造物築城部ノ管理ニ屬スルモノヲ除クノ管理シ軍需品ノ整備ニ任ス

第八條 司令官ハ當該要塞砲兵隊長及其ノ地所在ノ衛戍病院長ヲシテ防禦計畫上必要ナル事項ノ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第九條 司令官ハ平時豫メ地方官ト協議シ臨戰若ハ合圍ノ場合ニ於テ軍隊ノ宿營給養及公共ノ保安ニ關シ必要ナル事項ヲ實行スルノ方法ヲ計畫スヘシ

第十條 司令官ハ必要ニ應ジ在島地方官(公吏)更ヲシテ軍需品ニ關スル調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條 演習若ハ試驗ノ爲在島要塞ニ於テ備砲ノ發火ヲ行ハントスルトキハ司令官之ヲ許否スルノ權ヲ有ス

第十二條 參謀ハ司令官ノ命ヲ受ケ要塞防禦及動員計畫ノ調査ニ從事ス

第十三條 副官ハ司令官ノ命ヲ受ケ庶務ニ服シ圖書及諸帳簿ノ保管ニ任ス

第十四條 部員中砲兵科將校ハ司令官ノ命ヲ受ケ在島要塞ノ砲兵事業ノ調査ニ從事シ要塞備附ノ兵器器具材料守城工兵器具材料ヲ階クノ保管ニ任ス

砲兵科將校ハ要塞ノ備砲工事及在島軍隊官衙用兵器ノ支給交換ニ關シテハ兵器本廠長ノ指揮ヲ受ケ

第十五條 部員中工兵科將校ハ司令官ノ命ヲ受ケ在島要塞ノ工兵事業ノ調査ニ從事シ防禦營造物及守城工兵器具材料ノ保管ニ任ス

工兵科將校ハ防禦營造物ノ新築改築増築及國防用土地ノ管理ニ關シテハ築城部本部長ノ指揮ヲ受ケ

第十六條 部員ハ司令官ノ命ヲ受ケ砲臺監守ノ教育ヲ掌ル

第十七條 副監督ハ司令官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

第十八條 准士官下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

附則

本條例ハ明治三十六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年勅令第二百三十九號警備隊司令部條例ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十節 要塞司令部

● 要塞司令部條例 明治三十六年四月
勅令第百七十九號

朕要塞司令部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

要塞司令部條例

第一條 要塞司令部ニ左ノ職員ヲ置ク

司令官

參謀

副官

部員

副監督

准士官下士及判任文官

參謀及副監督ハ要塞ノ位置ニ依リ之ヲ置カス

第二條 司令官ハ要塞所管ノ師團長師團長ハ在リテハ營長ニシテ在ラズニ隸シ要塞ノ防禦計畫ヲ擔任シ要塞諸部隊ノ動員計

畫ヲ統監シ要塞備附ノ兵器器具材料及防禦營造物築城部ノ管理ニ屬スルモノヲ除クヲ管理シ軍需品ノ整備ニ任ス

第三條 司令官ハ常該要塞砲兵隊ノ教育訓練ヲ監視シ意見アレハ之ヲ隊長ニ訓示シ且師團長ニ報告シ

兵科専門ノ事ニ關シテハ之ヲ要塞砲兵監ニ告知スヘシ

第四條 司令官ハ常該要塞砲兵隊長及其ノ地所在ノ衛戍病院長ヲシテ防禦計畫上必要ナル事項ノ調査

ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條 司令官ハ平時豫メ地方官ト協議シ臨戰若ハ合圍ノ場合ニ於テ軍隊ノ宿營給養及公共ノ保安ニ

關シ必要ナル事項ヲ實行スルノ方法ヲ計畫スヘシ

第六條 司令官ハ必要ニ應シ郡市町村長ヲシテ軍需品ニ關スル調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條 演習若ハ試驗ノ爲要塞内ニ於テ備砲ノ發火ヲ行ハントスルトキハ司令官之ヲ許否スルノ權ヲ有ス

第八條 參謀ハ司令官ノ命ヲ受ケ要塞防禦及勳員計畫ノ調査ニ從事ス

第九條 副官ハ司令官ノ命ヲ受ケ庶務ニ服シ圖書及諸帳簿ノ保管ニ任ス

第十條 部員中砲兵科將校ハ司令官ノ命ヲ受ケ要塞砲兵事業ノ調査ニ從事シ要塞備附ノ兵器器具材

料守城工兵器具ノ保管ニ任ス

砲兵科將校ハ要塞ノ備砲工事及要塞所在地軍隊官術學校所要兵器ノ支給交換ニ關シテハ兵器本廠長

ノ指揮ヲ受ク

第十一條 部員中工兵科將校ハ司令官ノ命ヲ受ケ要塞ノ工兵事業ノ調査ニ從事シ防禦營造物及守城工

兵器具材料ノ保管ニ任ス

工兵科將校ハ防禦營造物ノ新築改築増築及國防用土地ノ管理ニ關シテハ築城部本部長ノ指揮ヲ

受ク

第十二條 部員ハ司令官ノ命ヲ受ケ砲臺監守ノ教育ヲ掌ル

第十三條 副監督ハ司令官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

第十四條 准士官下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

附則

本條例ハ明治三十六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 第十一節 憲兵

● 憲兵條例

明治三十一年十一月
勅令第三百三十七號

改正

● 明治三十二年九月 ● 明治三十三年五月 ● 明治三十四年四月 ● 明治三十五年十月 ● 明治三十六年三月
勅令第三百八十二號 勅令第二百五十五號 勅令第二十九號 勅令第二百二十三號 勅令第五百十八號

朕憲兵條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セム

憲兵條例

第一章 總則

第一條 憲兵ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ主トシテ軍事警察ヲ掌リ兼テ行政警察、司法警察ヲ掌ル

第二條 憲兵ハ其ノ職務ノ執行ニ付軍事警察ニ係ルモノハ陸軍大臣及海軍大臣行政警察ニ係ルモノハ

内務大臣司法警察ニ係ルモノハ司法大臣ノ指揮ヲ承ク臺灣ニ於ケル軍事警察、行政警察、司法警察

ニ係ルモノハ臺灣總督ノ指揮ヲ承ク

第三條 憲兵ハ行政警察、司法警察ニ係ル事件ニ付テハ警視總監、北海道廳長官、府縣知事東京府知事ヲ除ク及

檢事ノ指示ヲ承ク但シ臺灣ニ於ケル行政警察、司法警察ニ係ル事件ニ付テハ廳長及法院檢察官ノ指

示ヲ承ク

憲兵ハ要塞地帯法ノ施行ニ付テハ要塞司令官又ハ要塞司令官ノ職務ヲ行フ官廳、軍港要港規則ノ施

行ニ付テハ鎮守府司令長官若ハ要港部司令官又ハ鎮守府司令長官若ハ要港部司令官ノ職務ヲ行フ官

廳ノ指示ヲ承ク

憲兵ハ臺灣ニ於ケル地方守備ニ關スル軍事警察ニ付テハ臺灣守備混成旅團長旅團長ヲラサレ地ニ在テハ守備隊長ノ指示ヲ

承ク

第四條 憲兵ハ其ノ職務上ニ關シ正當ノ職權ヲ有スル者ヨリ要求アルトキハ直ニ之ニ應スヘシ

第五條 憲兵ハ左ニ記載スル場合ニアラザレハ兵器ヲ用ウルコトヲ得ス
一 暴行ヲ受クルトキ
二 其ノ占守スル土地若ハ委託セラレタル場所又ハ人ヲ防衛スルニ兵力ヲ用ウルノ外他ニ手段ナキトキ又ハ兵力ヲ以テセザレハ抗抵ニ勝ツ能ハサルトキ

第二章 配置職員

第六條 東京ニ憲兵司令部ヲ置キ各憲兵隊管區ニ一憲兵隊ヲ配置ス

憲兵隊管區ハ別表ニ依ル但シ臺灣ニ於ケル憲兵隊管區ハ臺灣總督之ヲ定ム

第七條 各憲兵隊本部ハ師團司令部所在地ニ之ヲ置ク

各憲兵隊ハ之ヲ分隊ニ分ツ其ノ配置及管區ハ陸軍大臣之ヲ定ム

臺灣ニ於ケル憲兵隊本部ノ位置並分隊ノ配置及其ノ管區ハ臺灣總督之ヲ定ム

第八條 (削除)

第九條 (削除)

第十條 憲兵司令部ニ左ノ職員ヲ置ク

憲兵司令官

憲兵副官

憲兵下士

憲兵隊ニ左ノ職員ヲ置ク

憲兵隊長

憲兵隊副官

憲兵分隊長

憲兵隊附士官

憲兵准士官、下士、上等兵

憲兵司令部及憲兵隊ニハ經理部、衛生部及獸醫部士官、准士官、下士、判任文官並蹄鐵工長ヲ附スルコトヲ得

第十一條 (削除)

第十二條 陸軍大臣及臺灣總督ハ必要ニ際シ一時憲兵隊ノ一部ヲ其ノ管區外ニ派遣スルコトヲ得

第十三條 (削除)

第三章 職務

第十四條 憲兵司令官ハ各憲兵隊ヲ統轄シ司令部ノ事務ヲ總理ス

第十五條 憲兵司令官ハ憲兵隊ノ軍紀、風紀、訓練、教育及職務履行ノ程度ヲ檢閲スヘシ

第十六條 憲兵隊長ハ各分隊ヲ統轄シ其ノ勤務方法ヲ指定シ隊中ノ事務ヲ總理ス

第十七條 憲兵副官ハ司令官、憲兵隊副官ハ隊長ノ命ヲ承ケ各部内ノ事務ニ服ス

第十八條 憲兵分隊長ハ部下ヲ指揮監督シ其ノ勤務ノ方法ヲ指定シ分隊ノ事務ヲ處理ス

第十九條 憲兵隊附士官ハ隊長ノ命ヲ承ケ勤務ニ服ス

第二十條 (削除)

第二十條 憲兵ノ服務ニ係ル規定ハ各主管大臣之ヲ定ム但シ臺灣ニ在テハ臺灣總督之ヲ定ム

附則

第二十一條 營分ノ内憲兵隊長、副官、分隊長、隊附士官ハ豫備役、後備役ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得

其ノ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第二十二條 (削除)
 第二十三條 本令ハ明治三十一年十二月一日ヨリ施行ス

(別表)

| 憲兵隊管區表 | | |
|----------|--------------------------|---|
| 管 區 名 | 區 | 城 |
| 第一憲兵隊管區 | 第一師管 | |
| 第二憲兵隊管區 | 第二師管 | |
| 第三憲兵隊管區 | 第三師管 | |
| 第四憲兵隊管區 | 第四師管及第十一師管内徳島縣板野郡 | |
| 第五憲兵隊管區 | 第五師管及第十一師管内愛媛縣越智郡 | |
| 第六憲兵隊管區 | 第六師管 | |
| 第七憲兵隊管區 | 第七師管 | |
| 第八憲兵隊管區 | 第八師管 | |
| 第九憲兵隊管區 | 第九師管 | |
| 第十憲兵隊管區 | 第十師管 | |
| 第十一憲兵隊管區 | 第十一師管(第四第五憲兵隊管區ニ應スル郡ヲ除ク) | |
| 第十二憲兵隊管區 | 第十二師管 | |

備考 臺灣ニ於ケル憲兵隊管區名ハ本表管區ノ順ニ道ニ再號ナラズ

第二十二條 (削除)
 第二十三條 本令ハ明治三十一年十二月一日ヨリ施行ス
 (別表)

| 憲兵隊管區表 | | |
|----------|--------------------------|---|
| 管 區 名 | 區 | 城 |
| 第一憲兵隊管區 | 第一師管 | |
| 第二憲兵隊管區 | 第二師管 | |
| 第三憲兵隊管區 | 第三師管 | |
| 第四憲兵隊管區 | 第四師管及第十一師管内徳島縣板野郡 | |
| 第五憲兵隊管區 | 第五師管及第十一師管内愛媛縣越智郡 | |
| 第六憲兵隊管區 | 第六師管 | |
| 第七憲兵隊管區 | 第七師管 | |
| 第八憲兵隊管區 | 第八師管 | |
| 第九憲兵隊管區 | 第九師管 | |
| 第十憲兵隊管區 | 第十師管 | |
| 第十一憲兵隊管區 | 第十一師管(第四第五憲兵隊管區ニ應スル郡ヲ除ク) | |
| 第十二憲兵隊管區 | 第十二師管 | |

備考 臺灣ニ於ケル憲兵隊管區名ハ本表管區ノ順ニ道ニ再號ナラズ

| | |
|-------|--|
| 第一條 | 憲兵司令部官ハ憲兵服務細則ヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ |
| 第二條 | 憲兵司令官及憲兵隊長ハ必要ニ依リ各部下隊長ヲ召致スルコトヲ得 |
| 第三條 | 憲兵隊長及憲兵分隊長ハ隊中ノ軍紀、風紀、訓練、教育、内務、服裝、衛生及經理事務ヲ司ル |
| 第四條 | 憲兵隊長ハ部下士官以下ニ職務ヲ課シ又ハ之ヲ各分隊ニ配屬轉換スルコトヲ得 |
| 第五條 | 憲兵隊長ハ各分隊ノ軍紀、風紀、訓練、教育及職務履行ノ程度ヲ檢閲シ又必要ニ依リ管區内ヲ巡視スルコトヲ得 |
| 第六條 | 憲兵分隊長ハ其ノ分隊ヲ數班ニ分テ准士官下士上等兵ヲ各班ニ配屬シ又適宜憲兵班ヲ其ノ分遣所ニ配置スヘシ |
| 第六條ノ二 | 憲兵分隊長ハ常ニ部下ノ勤惰ヲ監視シ其ノ情況ヲ憲兵隊長ニ報告スヘシ |
| 第七條 | 憲兵分隊長職務上其ノ管内巡視ヲ要スルトキハ豫メ憲兵隊長ノ認可ヲ請フモノトス |
| 第七條 | 副官ハ所屬上官ノ命ヲ承ケ文書ノ審査、起案ヲ掌リ廳印及圖書ヲ管守シ其ノ他部内一切ノ庶務ニ服ス |
| 第八條 | 副監督ハ憲兵司令官又ハ憲兵隊長ノ命ヲ承ケ會計事務ヲ掌ル |

●憲兵服務規程

明治三十一年十月 陸軍省令第百一十一號
 明治三十六年三月 陸軍省令第百二十九號

改正

●明治三十五年十月 陸軍省令第百二號

●明治三十六年三月 陸軍省令第百二十九號

憲兵服務規程左ノ通定、但明治二十九年陸軍省令第百十五號憲兵司令部服務規則並同年陸軍省令第百十六號憲兵隊服務規則ヲ廢止ス

- 第一條 憲兵司令官ハ憲兵服務細則ヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ
- 第二條 憲兵司令官及憲兵隊長ハ必要ニ依リ各部下隊長ヲ召致スルコトヲ得
- 第三條 憲兵隊長及憲兵分隊長ハ隊中ノ軍紀、風紀、訓練、教育、内務、服裝、衛生及經理事務ヲ司ル
- 第四條 憲兵隊長ハ部下士官以下ニ職務ヲ課シ又ハ之ヲ各分隊ニ配屬轉換スルコトヲ得
- 第五條 憲兵隊長ハ各分隊ノ軍紀、風紀、訓練、教育及職務履行ノ程度ヲ檢閲シ又必要ニ依リ管區内ヲ巡視スルコトヲ得
- 第六條 憲兵分隊長ハ其ノ分隊ヲ數班ニ分テ准士官下士上等兵ヲ各班ニ配屬シ又適宜憲兵班ヲ其ノ分遣所ニ配置スヘシ
- 第六條ノ二 憲兵分隊長ハ常ニ部下ノ勤惰ヲ監視シ其ノ情況ヲ憲兵隊長ニ報告スヘシ
- 第七條 憲兵分隊長職務上其ノ管内巡視ヲ要スルトキハ豫メ憲兵隊長ノ認可ヲ請フモノトス
- 第七條 副官ハ所屬上官ノ命ヲ承ケ文書ノ審査、起案ヲ掌リ廳印及圖書ヲ管守シ其ノ他部内一切ノ庶務ニ服ス
- 第八條 副監督ハ憲兵司令官又ハ憲兵隊長ノ命ヲ承ケ會計事務ヲ掌ル

上等計手ハ上官ノ命ヲ承ケ金銀物品ノ出納保管及計算記簿ノ事ニ服ス
 第九條 憲兵班長ハ分隊長ノ指揮ヲ承ケ勤務ニ服シ且部下下士上等兵ヲ指揮監督ス
 第十條 憲兵ハ常ニ軍人軍屬ノ行爲ヲ視察シ其ノ違式ヲ整防ス其ノ違式ニ涉ル行爲ヲ認メタルトキハ
 現役軍人及軍屬ニ在リテハ本人所屬ノ上官ニ告知シ在郷軍人ニ在リテハ本人所轄ノ師團長、警備隊
 司令官或ハ聯隊區司令官、警備隊區司令官ニ告知スヘシ
 第十一條 憲兵ハ上官ノ別命アルトキ又ハ時機猶豫スヘカラサルトキハ定規ノ服裝ヲ爲サメシテ勤務
 ヲ執ルコトヲ得
 第十二條 憲兵ハ地方ノ情况ヲ知悉シ且發生セシ事件ハ其ノ必要ニ依リ衛戍司令官、要塞司令官、警
 備隊司令官ニ通報スヘシ
 第十三條 (削除)
 第十四條 (削除)
 第十五條 (削除)

憲兵練習所條例

明治三十五年十月 勅令第二百二十四號

朕憲兵練習所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 憲兵練習所ハ憲兵司令部ニ置キ學生ニ憲兵ノ執務ニ必要ナル學術ヲ習修練磨セシメ以テ其實
 務ノ改良進歩ヲ圖ル所トス
 第二條 學生ハ各憲兵隊ヨリ士官准士官下士及上等兵ヲ分遣セシメ之ニ充ツ
 第三條 憲兵練習所ニ左ノ職員ヲ置ク
 所長 憲兵中、少佐
 副官 憲兵六、中尉
 教官 少佐大中尉及高等文官
 下士及判任文官
 第四條 所長ハ憲兵司令官ニ隷シ所務ヲ總理シ學生教育ノ責任ヲ負フ
 第五條 副官ハ所内一般ノ庶務ヲ掌ル
 第六條 教官ハ學生ノ教授ヲ分擔ス
 第七條 學生ノ修學期ハ概テ十箇月トス
 第八條 學生ノ人員及入學時期ハ憲兵司令官陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ之ヲ各憲兵隊長ニ令達ス
 第九條 學生分遣ノ令達アレハ各憲兵隊長ハ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入學期日十五日前ニ其考科表寫
 ヲ添テ憲兵司令官ニ報告スヘシ
 第十條 學生ハ所外ニ居住セシメ通學セシム但シ時宜ニ依リ所内ニ宿泊セシムルコトヲ得
 第十一條 學生修學ニ所要ノ書籍器具消耗品ノ一部ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ但シ下士上等兵

ノ武器被服器具ハ分遣ノ際之ヲ携帶セシム

第十二條 學生中ノ諸願届ハ所長ノ管理ニ屬ス

第十三條 學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退學スルヲ許サスト雖病氣其他ノ事故ニ依リ學術習得ノ目途ナキ者ハ退學歸隊セシム

第十四條 憲兵司令官ハ修學期末ニ於テ所長教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ士官准士官ニ在テハ修得證明書ヲ作リ之ヲ本人所屬ノ隊長ニ交付シ下士上等兵ニ在テハ學術修業證書ヲ附與シ學生修學ノ成績ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

附則

第十五條 第十三第十四及第十五憲兵隊ニ在テハ當分ノ内學生ヲ分遣セシメサルコトヲ得

第十六條 本條例ハ明治三十二年九月一日ヨリ施行ス

第十二節 近衛守衛隊

近衛守衛隊規則

明治三十二年六月

近衛守衛隊規則別冊ノ通改正セラル

(別冊)

近衛守衛隊規則

第一章 總則

第一條 近衛守衛隊ハ近衛歩兵一大隊及同騎兵砲兵若干ヲ以テ之ニ充テ二十四時毎ニ交代シ皇居(御所)

(明宮御殿)ノ儀仗及守衛ノ事ニ任ズルモノトス又要ムルトキハ工兵若干ヲ之ニ充ツルコトアリ

第二條 左ニ列記スル諸兵ヲ總稱シテ守衛隊ト云フ守衛隊ハ上番及控兵ノ二種ニ分テ近衛歩兵大隊長

ノ内一名之ヲ指揮ス

第三條 一 上番兵

一 儀仗衛兵(歩兵凡)

一 傳令騎兵

一 號砲手

第四條 一 控兵

一 控兵ハ上番兵ト同大隊ノ他ノ半大隊ヲ以テ之ニ充テ騎兵砲兵ニ在テハ同數ノ人員ヲ備フル

第五條 儀仗衛兵ハ皇居正門(寶所青山)御所(明宮御殿)等ニ之ヲ置キ其場所及兵員ニ依リ中隊長或ハ

小隊長之ヲ指揮ス

陸軍省所管 第十二節 近衛守衛隊

- 第四條 傳令騎兵ハ急速ノ傳令其他出火ノ際火元檢視等ヲナシムルモノニシテ騎兵下士或ハ上等兵一名騎卒若干名ヲ以テ之ニ充ツ
- 第五條 號砲手ハ非常及火災ノ號砲ヲ發セシムルモノニシテ砲兵下士或ハ上等兵一名砲卒若干名ヲ以テ之ニ充ツ
- 第六條 控兵ハ非常ノ時ニ方リ上番兵ニ増加スルモノニシテ其勤務ニ當ル將校退營後ハ在宿シ下士兵卒ニ在テハ屯營ヲ出ツルヲ許サス
- 第七條 儀仗衛兵ノ服裝ハ總テ正裝トス但歩哨ハ背囊ヲ負ハサルモ妨ナシ
- 第八條 傳令騎兵及號砲手ノ服裝ハ軍裝トス但背囊ニ飯盒豫備靴ヲ附着セズ又水筒ヲ携帶セズ
- 第九條 上番ノ守衛隊ハ先ツ整列場ニ至リ守衛隊司令官ノ検査ヲ受ケ分列式ヲ行ヒ上番スヘシ
- 第十條 隊伍及諸官ノ位置衛兵交代法衛舍掛、歩哨掛及歩哨ノ任務等ハ概テ衛隊規則ノ法ヲ適用ス
- 第十一條 守衛隊上番ノ各將校ハ時々 皇居(青山御所明堂) 内ヲ巡視スヘシ
- 第十二條 守衛隊服務ノ細則ハ近衛都督適宜ニ之ヲ定ムヘシ
- 第十三條 守衛隊各司令及各兵ノ任務
- 第十四條 守衛隊司令官ハ守衛隊ノ順序ニ從ヒ一列ノ當直ヲ立テ二十四時間ヲ以テ交代服務シ寸時モ宮門ヲ出ツルヲ許サス
- 第十五條 守衛隊司令官ハ直ニ都督ノ命ヲ奉シ守衛隊ヲ指揮シ 皇居(青山御所明堂)ノ警備ニ任ス故ニ其警備上ニ就キ臨機宜ヲ制スヘキ事アレハ之ヲ裁定シ後テ都督ニ上申スルコトヲ得
- 第十六條 守衛隊司令官ハ非常或ハ御近火ノトキハ號砲發火ノ令ヲ下ヌヲ得
- 第十七條 守衛隊司令官ハ侍中武官ヨリ練兵等ノ事ヲ宣傳アルトキハ謹テ奉承シ上番兵或ハ控兵等ヲ以テ之ニ從事セシムヘシ

- 第十七條 儀仗衛兵司令ハ守衛隊司令官ノ命ヲ奉シ再テ儀仗及警備ノ事ニ任シ衛兵ヲシテ嚴ニ其職務ヲ竭サシムヘシ
- 第十八條 傳令騎兵下士或ハ上等兵ハ傳令騎兵ヲ統轄シ守衛隊司令官ノ命ヲ奉シ部下ヲシテ傳令ノ勤務ニ服セシムヘシ
- 第十九條 號砲手下士或ハ上等兵ハ號砲手ヲ統轄シ守衛隊司令官ノ命ヲ奉シ部下ヲシテ非常或ハ御近火ノ際號砲ヲ發セシムルモノトス
- 第二十條 守衛隊ノ將校下士卒ハ其職務ノ爲メニ非サルヨリハ暫時モ衛舍ヲ離ル、ヲ許サス而シテ其任務ハ 皇室ノ威嚴ニ關スルヲ以テ能ク其本旨ヲ奉戴シ嚴ニ其任務ヲ竭スヘシ歩哨巡察及傳令騎兵ハ特ニ注意ヲ加ヘ姿勢動作ヲ嚴正ナラシメ毫モ輕忽ノ舉動アルヘカラス

第十三節 衛戍

● 衛戍條例

明治二十八年十月
勅令第三百三十八號

改正

● 明治二十九年九月
勅令第三百號

● 明治三十一年四月
勅令第七十八號

● 明治三十四年四月
勅令第三十一號

朕衛戍條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

衛戍條例

第一條 陸軍軍隊ノ永久一地ニ配備駐屯スルヲ衛戍ト稱シ東京ニ在テハ第一師團長各要塞ニ在テハ要塞司令官其他ニ在テハ其地屯在ノ高級團隊長之カ司令官タルモノトス
衛戍司令官タル東京防備總督要塞司令官及團隊長ハ衛戍勤務上ニ於テモ亦其所屬上官ノ區處ヲ受ク
ルモノトス

第二條 要塞司令部及團隊ノ副官ハ其司令官及團隊長衛戍司令官タルトキハ衛戍副官ヲ兼ス

第三條 各衛戍地ニハ所要ニ應ジ監獄ヲ置キ衛戍司令官ノ管轄トス又其ノ衛戍地ノ陸軍諸官廳及陸軍ノ建築物ニ關スル火災水害等ノ救防ハ衛戍勤務ニ屬ス

第四條 衛戍司令官ハ衛戍地警備ノ責任ヲ衛戍勤務ニ關シテハ其地駐屯ノ軍隊ヲ指揮シ衛兵ノ部署及其人員ヲ定ム

但衛戍勤務ヲ以テ近衛師團ノ禁固守衛勤務ヲ妨クルコトナシ
第五條 衛戍司令官ハ警備上必要ト認ムル時ハ衛戍上其管轄ニ屬セサル軍隊ト雖モ其衛戍地ニ駐在スル者ニ對シ援助ヲ請求シ又憲兵ヲシテ地方ノ情勢ヲ報告セシメ且火急ノ場合ニ際シテハ直ニ之ニ命令スルコトヲ得

第六條 前條ノ請求ヲ受ケタル團隊長ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條 衛戍地ニ駐在スル軍隊ハ衛戍司令官ノ管轄ニ屬セザルモノト雖モ衛戍司令官ノ定メタル衛戍上ノ諸規則ニ對シテハ總テ遵守ノ義務アルモノトス

第八條 衛戍司令官ハ有事ノ日ニ方リ住民共ニ保安ニ關スル措置ニ就テハ當該地方官ト協議スルモノトス

衛戍司令官ハ衛戍線内ニ騷擾ノコトアルニ方リ地方官ヨリ請求アルトキハ兵力ヲ以テ便宜事ニ從フコトヲ得

第九條 憲兵隊ニ在テハ第五條第六條及第七條ヲ除ク外衛戍勤務ニ干與セズ

● 衛戍服務規則

明治二十四年十一月 陸軍省達第百六十七號

改正

● 明治二十七年七月 陸軍省達第七十八號

● 明治三十年三月 陸軍省達第三十八號

● 明治三十一年四月 陸軍省達第四十六號

衛戍服務規則別冊ノ通改正セラル

(別冊)

爰ニ衛戍服務規則ヲ改正セラル夫レ衛戍服務ノ目的ハ平時衛戍地ノ治安ヲ維持シ且事變ニ際シ人民ヲ保護スルニ在リ其服務ハ廣ク地方官民ニ關係ヲ有スルモノナレハ之ヲ詳細ニ規定シ以テ衛戍諸隊ヲシテ盡一ノ法ニ據ラシムルヲ要ス而シテ其衛戍服務ノ如キハ以テ戰時警備勤務ノ豫習ト爲スヲ得ヘシ上將校ヨリ下兵卒ニ至ルマテ各其責任ヲ實務ニ盡スニ由リ自然ニ其精神ヲ鍛鍊スルノ良法ナレハ豫備後備ニ在ル者ト雖其召集中ハ均ク服務セシムヘシ然レトモ或ハ衛戍服務ヲ擴張スルニ偏シテ覺エヌ他々教育ヲ妨害スルカ如キハ固ヨリ戒メサル可カラヌ今般衛戍服務規則ヲ改正セラレ之レヲ頒行スルニ望ミ聊カ一言ノ注意ヲ加フ

衛戍服務規則

第一章 衛戍服務

第一條 衛戍服務ハ其種類又ハ目的ニ從テ各兵ノ任スル所トス

將校ト包テ以下同シ下士ハ其階級ノ如何ヲ問ハス其司令權相當ノ人員ヨリ寡少ノ者ヲ指揮スルコトアルヘシ

第二條 服務ノ種類及目的左ノ如シ

第一種 分遣隊及護送兵即チ數日間服務スルモノ

第二種 衛兵、號砲手、傳令兵、控兵、儀仗衛兵、使役等即チ二十四時毎ニ交代スルモノ

第三種 巡察及總代

分遣隊ハ術成地外ノ支隊ニシテ砲臺火藥庫等ニ置クモノトス

護送兵ハ囚徒兵器彈藥等ノ輸送ヲ護衛スルモノトス

衛兵ハ樞要ノ場所官術兵器彈藥庫等ノ守備ニ任スルモノトス

號砲手ハ號砲發放ノコトヲ掌ル

傳令兵ハ術成司令官及衛兵等ニ附屬シ命令及報告ヲ傳達ニ任スルモノトス

控兵ハ時機ニ應ジテ衛兵ヲ増加シ或ハ臨時派遣ノ爲メニ營中ニ備フルモノトス

巡察ハ衛兵ノ勤惰ヲ督シ且術成司令官ノ定ムル地域ヲ巡檢スルモノトス

總代ハ慶賀葬祭等ノ際軍人ノ一部分ヲ代表シテ其ノ式場ニ望ムモノトス

使役ハ兵器糧食被服等ノ運搬手入其ノ他ノ雜役ニ服スルモノトス

第三條 凡ソ術成ノ服務ハ諸隊合同履行スヘキモノナリト雖場合ニ依リ特ニ某兵種ヲ擧用スルコトアルヘシ

第四條 事故ノ爲メ術成服務ヲ完了セザルモ左ノ場合ニ於テハ之ヲ實行シタルモノト見做スヘシ

第一種服務ハ術成地ヲ出テタル後

第二種服務ハ屯營ヲ出テタル後

第三種服務中巡察ハ之ヲ始メシ後總代ハ式場ニ到リタル後

第五條 術成副官ハ術成服務ノ細件ヲ掌理シ毎日術成司令官ノ定ムル時刻ニ於テ諸報告ヲ受領シ之ヲ司令官ニ呈スヘシ又此時刻ニ於テ司令官ノ命令ヲ達シ必要ノ事件ヲ報告スヘシ

第二章 衛兵ノ服務

總則

第六條 本營衛兵服務ノ規則ハ專ラ步兵隊ニ關シテ之ヲ定ムト雖其ノ他ニ在テモ亦之ヲ適用スヘシ衛兵ハ務メテ其ノ守地近傍ノ屯營ニ在ル軍隊ヲ以テ之ニ充ツルヲ常トス

衛兵ノ交代法

第七條 下番衛兵ハ交代ノ時限前ニ至レハ武裝ヲ整ヘ衛舍ノ前ニ於テ其ノ左方ニ上番衛兵ノ爲ニ餘地ヲ置テ整列ス若シ其ノ場所狭小ナルトキハ上番衛兵ヲシテ衛舍ノ方ニ整列セシムル爲メ下番衛兵ハ其ノ前方ニ整列シ衛舍ニ對向ス而シテ上番衛兵凡ソ五十歩ノ地ニ來レハ速步行進ヲ取リ喇叭ヲ吹奏ス而シテ其ノ位置ニ到レハ停止正面シテ整頓ス兩衛兵ハ共ニ捧銃ヲナシ喇叭手ハ「皇御國」ヲ吹奏ス

兩衛兵ノ司令ハ互ニ進テ敬禮ヲ行フ而シテ下番衛兵司令ハ職務ニ關スル百事ヲ上番衛兵司令ニ傳告スルモノトス

上番衛兵ノ司令ハ部下ニ職務ヲ分課シ衛舍掛ヲシテ衛舍及舍内備附ノ諸物品ヲ請取ラシメ又歩哨掛ヲシテ歩哨ノ交代ヲ爲サンメ且下番衛兵ノ歩哨掛ヨリ其ノ職務上ニ係ル申繼ヲ領承セシムヘシ

歩哨交代終レハ兩衛兵司令共ニ部下ヲシテ捧銃ヲナサシメ兩衛兵ノ喇叭手ハ「皇御國」ヲ吹奏シテ下番衛兵ハ退去ス

下番衛兵既ニ退去スレハ上番衛兵ノ司令ハ部下ヲ解散シテ衛舍ニ入ラシム衛兵ハ術成司令官ノ訓令ニ從ヒ其ノ銃ヲ銃架ニ置クカ或ハ衛舍内ニ置クヘシ何レノ場合ニ在テモ銃及ヒ背囊ハ各自番號ノ順序ニ從ヒテ之ヲ列置シ錯雜セザル機注意スヘシ

暗號

第八條 暗號ハ地方ノ情勢ニ於テ必要アルトキハ之ヲ用ヒ術成司令官之ヲ規定ス
海軍兵同術成地ニ在ルトキハ術成司令官豫メ其ノ長官ト協議シテ暗號ヲ規定スヘシ

暗號ハ衛兵上番時刻前封書ヲ以テ衛戍副官ヨリ聯隊長及獨立隊長ニ傳達スヘシ衛兵司令巡察及控兵ノ將校下士ニハ週番中隊長ヲシテ傳達セシムルモノトス

衛兵司令ハ日没前ニ於テ部下ニ暗號ヲ授クヘシ

第九條 陸軍大臣參謀總長及都督ニハ衛戍副官暗號ヲ持參シ師團司令部陸軍各官衛及學校ハ暗號受領人ヲ副官ノ許ニ出スヘシ又時機ニ由リ之ヲ地方官廳ニ送附スルヲ要スルトキハ下士或ハ古參兵卒ヲシテ之ヲ齎サシム

衛兵司令ノ職務

第十條 衛兵司令ハ其任務ヲ熟知シ之ヲ實施スルニ必要ナル事項ヲ部下ニ教示シ之ヲシテ嚴正ニ其勤務ニ服セシムヘシ

第十一條 衛兵司令ハ勤務ノ外衛舎ヲ離ルルヲ得ス常ニ刀(劍)ヲ帶シ其ノ下士兵卒ニ在テハ劍及彈藥盒ヲ脱スルヲ許サヌ又夜間衛兵ノ三分二ハ就眠スルコトヲ得ス

第十二條 衛兵司令ハ衛兵ヲシテ暫時モ衛舎ヲ離レシムヘカラス屢點呼又ハ呼集ヲナシ以テ警戒ヲ怠ルヘカラス

第十三條 衛兵司令ハ常ニ部下ノ服裝ニ注意シ朝夕點呼ノ後其檢査ヲナスヘシ

第十四條 衛舎ニハ常ニ其ノ人員ニ應スル食糧ヲ納メタル函アリ此函ハ衛戍司令官嚴重ニ封鎖シテ火災ノ患ナキ場所ニ置クモノニシテ衛戍司令官ノ命アルカ又ハ形勢漸止ヲ得サル時ニアラサレハ衛兵司令其ノ鎖封ヲ開キ食糧ヲ配分スルヲ許サヌ

第十五條 衛舎ニハ不慮ノ準備トシテ最近ニ在ル左ノ箇所ヲ揭示スヘシ

其一 憲兵屯所及警察署

其二 兵營

其三 病院若クハ醫官ノ宿所

其四 消防隊ノ屯所

第十六條 現行犯逮捕ニ關シテ憲兵又ハ警察官ヨリ助力ヲ請フコトアルトキハ速ニ之ヲ援助スヘシ然レトモ別命アルニアラサレハ衛兵司令自ラ之ニ赴キ或ハ部下現在員ノ過半ヲ分遣ス可ラス

第十七條 凡ソ衛兵ヲ分遣スルニハ何レノ場合ヲ論ゼモ其兵員ハ必ス前條ノ例ニ遵フヘシ衛兵司令ハ何レノ場合ニ於テモ分遣ノ理由及ヒ援助ノ景況等ヲ詳記シテ速ニ衛戍司令官ニ報告スヘシ

第十八條 事變ニ際シテハ衛兵司令部下ヲシテ兵器ヲ執ラシメ人ヲシテ衛舎ノ周邊ニ群集セシムヘカラス若シ群衆散セヌ其勢危急ニ迫ルトキハ銃ニ裝填セシムヘシ此場合ニ於テハ直ニ其旨ヲ衛戍司令官ニ憲兵、警察官兵營ニ急報スヘシ

衛兵襲撃ヲ受クルノ場合ノ外ハ治安維持ノ爲メタリトモ第四十七條ニ記載スル場合ニ非サレハ兵器ヲ用フルヲ得ヌ

第十九條 守地近傍ノ火災ニ當リテハ衛兵司令ハ部下ヲシテ兵器ヲ執ラシメ直ニ衛戍副官、憲兵、警察官、消防隊及近隣ノ兵營ニ通報スヘシ

第二十條 衛兵ハ警戒及敬禮ノ爲メ執銃整列ス但非常ノ時ニアラサレハ背囊ヲ負ハサルモノトス

第二十一條 衛兵司令ハ毎日衛戍司令官ノ定ムル時刻ニ於テ前日交代後發生セシ事件ヲ詳記シテ之ヲ報告スヘシ

重大ノ事件ニシテ急報ヲ要スルトキハ別ノ報告書ヲ衛戍副官ニ送致スヘシ

第二十二條 衛兵司令部下ニ犯罪其他事故ニ依リ職務ヲ繼續セシム可ラサル者アルハ直ニ本隊ノ週番中隊長ニ通知シテ交代兵ヲ要求シ後之ヲ衛戍副官ニ報告スヘシ

衛兵下士ノ職務

第二十三條 衛兵司令將校ナルトキハ下士ハ之ニ統シテ細務ニ從事ス又司令衛舍ヲ離ル、トキハ必ス留守スヘシ

第二十四條 毎日報告ノ時刻ニハ衛兵司令ノ報告並其衛舍ノ帳簿ヲ持參シ衛成副官ニ呈シ又必要ナル消耗品ノ傳票ヲ受領シ之ヲ衛舍掛ニ渡スヘシ

衛兵司令下士ナルトキハ上等兵、司令上等兵ナルキハ古參ノ兵卒前項ノ事ヲ掌ル
衛兵上等兵ノ職務

一 總則

第二十五條 衛兵ニ數名ノ上等兵アルトキハ其内一名ハ衛舍掛ヲ勤メ其他ノ者ハ交替ニ步哨掛或ハ巡察斥候等ニ關スル勤務ニ服ス上等兵一名ノミナルトキハ此諸勤務ヲ兼掌ス
衛兵司令上等兵ナルトキハ故參ノ兵卒ヲシテ步哨掛ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得

二 衛舍掛

第二十六條 衛舍掛ハ衛舍内外ノ清潔ニ注意シ衛舍及舍内備附ノ諸器具保存ニ任ス故ニ交代ノ時下番衛兵ノ衛舍掛立會ニテ諸器具及ヒ門戸窓扉等ニ至リ迄悉ク破損缺失ヲ檢シ而シテ其有無ヲ衛兵司令ニ報告スヘシ若シ破損缺失アルトキハ司令ヨリ其旨又衛成副官ニ報告スヘシ

三 步哨掛

第二十七條 步哨掛ハ步哨ノ交代ヲ掌リ且其服裝ヲ整正シ其守則ヲ熟知シ且嚴密ニ之ヲ實施セシムルヲ任トス又哨舍ノ清潔保存ヲ監視スヘシ

四 步哨ノ配置及交代法

第二十八條 步哨ヲ配置スルニハ其第一故參ノ者ヲ銃前步哨トシ第二ノ者ヲ最遠ナル守地ニ置キ順次衛舍ニ近クニ隨テ新參ノ者ヲ置クヲ例トス

人員寡少ノ衛兵ニ在テハ別ニ銃前步哨ヲ置カサルコトヲ得

第二十九條 步哨掛ハ步哨ニ當ルヘキ兵ヲ呼出シ之ヲ一線ニ並列セシメ(其人員四名以下ナルトキハ重複セシメテ)右向キヲナサシメ勇ヲ先頭ノ左ニ附キ下番衛兵ノ步哨掛アルトキハ又其左ニ附キテ交代ニ赴ク其交代ノ順序ハ銃前步哨ヲ始トシ次ニ最遠ノ哨所ニ行キ夫ヨリ逐次ニ衛舍ノ近傍ニ及

フヲ例トス其交代スヘキ步哨ヲ距ルコト凡ソ六步ノ地ニ到レハ步哨掛其隊ヲ停メ步哨掛ハ上番步哨ヲ下番步哨ノ前面ニ誘ヒ對立セシメ「捧ケー銃」ノ令ヲ下ス此令ニテ兩步哨ハ捧銃ヲナシ下番步哨ハ低聲ヲ以テ其守則ヲ上番步哨ニ傳告ス若シ其傳告中誤謬アルトキハ步哨掛之ヲ改正シ或ハ説明ヲ加ヘ終テ步哨掛ハ兩步哨ヲシテ立銃セシメ然ル後上番步哨ヲシテ哨舍ノ内外ヲ檢査セシム

銃前步哨ヲ除クノ外總テ下番步哨ハ交代ノ後其隊ヲ附キ步哨掛ニ隨テ衛舍ニ歸ルモノトス交代全ク畢リ衛舍前ニ歸レハ步哨掛ハ下番步哨ノ銃ヲ檢査マテ解散セシメ然ル後衛兵司令ニ交代終リタル旨ヲ申告スヘシ

第三十條 步哨ハ通常二時間毎ニ交代セシムルモノトス然レトモ時候若クハ形勢ニ依リ一時間毎ニ交代セシムルコトヲ得

此場合ニ在テハ衛成司令官特ニ命令ヲ下スヘシ但天候劇變ノ際ハ衛兵司令之ヲ變更スルコトヲ得

步哨ノ職務

一 總則

第三十一條 步哨ハ擔銃或ハ立銃ヲ爲シ或ハ銃ヲ腕ニシ其守地ヲ看守スヘシ假令哨舍内ニ在ルトキト雖銃ヲ離スヘカラス夜間又ハ別命アルニアラサレハ銃ニ劔ヲ附セシ

步哨ハ哨舍ノ近傍三十步以内ヲ行動スルコトヲ得ルト雖爲メニ看守ヲ怠ルヘカラス又交代ノ時ハ必ス其定位ニ復立スヘシ

歩哨ハ姿勢動作ヲ嚴正ニスヘシ吟哦喫咽シ或ハ履リニ人ト談話シ或ハ哨舎ヲ毀損シ或ハ其近傍ヲ汚穢ニシ或ハ頭巾ヲ著スヘカラス又雨雪天ノ外ハ哨舎ニ入ルヘカラス
歩哨ハ歩哨掛ノ引率モシ兵ニ非サレハ交代ニヘカラス又衛戍司令官、同副官、衛兵司令、下士、上等兵及巡察ニアラサレハ他人ニ其守則ヲ語リ或ハ他人ヨリ更ニ守則ヲ受クヘカラス
歩哨ノ敬禮ハ陸軍禮式ノ定ムル所ニ遵フ

二 歩哨ノ警戒

第三十二條 歩哨ハ常に耳目ヲ活動シテ百事ニ注意シ其哨舎内ニ在ルトキト雖決シテ警戒ヲ怠ルヘカラス又敬禮ヲ行ヒ特ニ警戒ヲ要スルトキハ必ス哨舎ヨリ出ツヘシ然レトモ敬禮ノ爲メ警戒ヲ怠ルヘカラス
歩哨若シ火災アルヲ知ラハ「火事」ト呼ビ又盜賊暴行者等ヲ見レハ「氣ヲ著ケ」ト呼ビ隣哨又ハ哨舎ニ報スヘシ

銃前歩哨ハ非常觀音ヲ聞クカ又ハ陸軍禮式第四十八條ニ依リ衛兵ノ銃ヲ執ルヘキ者及巡察將校ノ來ルヲ望見セハ「執レ銃」ト呼フヘシ

三 夜間歩哨

第三十三條 歩哨特別ノ時機ニ於テ又特別ノ守則ニ依リ夜間人ヲ妄ニ近接スルトヲ許サズルトキハ之ヲ問查スヘシ此ノ場合ニ於テ人來ラハ「止レ」ト呼ビ其人止レハ「離カ」ト問フヘシ其人斥候又ハ巡察ニ非サレハ「通レ」ト呼ビ已ヨリ反對ノ方向ニ通行セシムヘシ若シ「止レ」ト呼フコト三回ニ及ラモ答ヘス尙ホ前進スルトキハ銃ヲ構ヘテ行進ヲ遮阻スヘシ
斥候巡察等ナルトキハ次ノ法ニ據テ問查スヘシ

甲 斥候ニ對スル時

第三十四條 銃前歩哨夜間軍隊ノ來ルヲ見レハ「止レ」ト呼ビ哨舎ニ向テ「執レ銃」ト呼フヘシ此呼聲ニ應シテ軍隊ハ其行進ヲ停メ衛兵ハ直ニ整列ス
衛兵ノ上等兵ハ護衛卒二名ヲ從ヘテ十五步前進シ護衛卒ハ四步後方ニ止ル而シテ上等兵ハ「離カ」ト呼フ彼レ「斥候」ト答フレハ更ニ「暗號ニ進メ」ト呼ビ構銃ヲナス斥候長ハ獨リ前進シ上等兵ニ向ヒ低聲ニテ暗號ヲ唱フ上等兵ハ之レニ應シテ後護衛卒ト俱ニ整列シ斥候長ヲシテ獨リ通過セシメ之ヲ衛舎ニ誘ヒ衛兵ハ其衛舎ニ入ルヘシ
凡テ問查ニ任ヌル上等兵及ヒ之ニ從フ兵卒ハ豫メ之ヲ定メ置クヘシ
上等兵ハ斥候長ノ唱フル暗號ニ錯誤アレハ之ヲ衛兵司令ニ引致シ衛兵司令ハ之ヲ審査シ疑フヘキ所アレハ其兵卒ト俱ニ之ヲ拘留シ直チニ其旨ヲ衛戍副官ニ申告スヘシ
歩哨ハ「止レ」ト呼フモ軍隊停止セサルトキハ更ニ「止レ」ト呼ビ彼レ尙ホ前進スルトキハ銃ヲ構ヘ衛兵ハ防禦ノ準備ヲ爲スヘシ

銃前ニ配置セサル歩哨モ亦「止レ」ト呼ビテ軍隊ヲ止メ軍隊停止セハ「離カ」ト呼フ彼レ斥候ト答フレハ「暗號ニ進メ」ト呼ビ構銃ヲナス此時斥候長ハ單進シテ歩哨ニ暗號ヲ與フヘシ
乙 夜間衛舎近傍ヲ通過スル軍隊ニ對スル時
第三十五條 軍隊夜間ニ衛舎或ハ獨立歩哨ノ近傍ヲ通過スルトキハ歩哨、衛兵司令、上等兵ハ前條ニ據リ問查スヘシ但軍隊指揮官ハ上等兵或ハ歩哨ノ誰何ニ答フルニ際シテ以テシ又暗號ヲ與ヘタル後衛舎ニ入ルコトナシ

丙 巡察ニ對スル時

第三十六條 銃前歩哨ハ「止レ」ト呼ビ近接シ來ルモノヲ止メ彼レ止レハ「誰カ」ト呼フ之レニ應シテ「將校巡察」若クハ「下士巡察」ト答フレハ歩哨ハ衛舎ニ向テ「將校巡察」若クハ「下士巡察」ト呼フ其他

ノ諸動作ハ第三十三條ニ據ルモノトス

第三十七條 斥候ハ諸衛兵ヨリ出スモノニシテ夜間守地ノ近傍ヲ巡候スルヲ常トス然レトモ時機ニ因リ晝間之ヲ派遣スヘシ

斥候ノ數及其巡候區域ハ衛兵司令之ヲ定メ且屢々其發程時刻及通路ヲ變更スルモノトス斥候ハ情況ニ因リ將校下士上等兵或ハ二等卒ヲ以テ其長トナスヘシ
衛兵ノ人員寡少ナルカ又ハ遠隔ノ地ニ斥候ヲ出スヲ要スルトキハ衛成司令官ノ命ニ依リ控兵中ヨリ之ヲ出スヘシ

第三十八條 斥候ハ所定ノ道路ヲ行進スヘシ近隣ニ非常ノ事アルニラサレハ定路外ニ出ツルヲ得ス
第三十九條 第十五條ノ規定ハ斥候ノ巡回中ニモ亦之ヲ適用シ火災ノトキハ斥候速ニ之ヲ比隣ノ衛兵ニ報知スヘシ

斥候長他ノ衛兵ノ守地ニ至レハ(間查終ルノ後)獨リ衛舍ニ入り衛舍ノ帳簿ニ其到達セシ時刻及其屬スル衛兵若クハ控兵ノ名稱ヲ記シ若シ非常ノ事件ヲ見セシコトアレハ之ヲモ記載スヘシ
斥候長ハ歩哨ノ勤務ニ注意シ其過失ヲ目撃スレハ之ヲ衛兵司令ニ申告スヘシ
斥候長歸舍スレハ報告ヲ衛兵司令ニ呈スヘシ衛兵司令ハ之ヲ自己ノ報告ニ記入シテ衛成司令官ニ進呈スルモノトス

第四十條 特別ノ時機ニ於テ夜間遭遇スル兩斥候間查ヲナスヘキ時ハ最初ニ發見セシ者「止レ」ト呼ビテ乙者ヲ止メ「誰カ」ト呼ビテ自らモ亦タ駐止ス乙者ハ直ニ駐止シテ斥候ト答フレハ甲者モ亦自カラ斥候ト唱ヘ「暗號ニ進メ」ト呼ビ兩斥候長相對シテ獨リ進ミ(兩斥候長ハ梯刀)甲者ハ其階級ノ如何ニ係ラス乙者ヨリ暗號ヲ受ケ之ニ應シテ後互ニ巡察ノ事件ヲ通報ス而シテ兩斥候ハ行進ヲ起スヘシ

第三章 巡察

第四十一條 巡察ハ晝夜之ヲ行ヒ晝巡夜巡ト稱ス衛成司令官ハ巡察ノ數、種類、日時及巡察スヘキ守地ヲ定ム若シ巡察スヘキ場所廣大ナルトキハ數箇ニ區分シテ巡察セシムヘシ
第四十二條 巡察ヲ分テ二種トナス左ノ如シ

其一 將校巡察
其二 下士巡察

將校ハ勤務ノ記章ヲ帶フルモノトス
暗號ヲ用ユルトキハ巡察將校下士ハ本隊連番中隊長ヨリ之ヲ受領スヘシ

時機ニ依リ兵卒ヲシテ護衛セシムルコトアリ然ルトキハ衛成司令官其兵員及編合ヲ規定スヘシ
第四十三條 巡察ノ將校下士ハ歩哨其守地ニ在テ能ク服務ヲナスヤ否ヲ監視スル者ニシテ其勤怠ヲ衛兵司令ニ通告シ且ツ翌朝衛成司令官ニ報告ス

巡察中衛成ノ警戒ニ關スル事件ヲ見聞スルトキハ直ニ之ヲ近傍ノ衛舍ニ通告シ且ツ必要アルトキハ衛成司令官ニ急報スヘシ

巡察將校下士ハ衛舍ノ牒簿ニ巡察ノ時刻ヲ記載シ且之ニ記名スヘシ
巡察將校下士ハ衛兵司令自己ヨリ下級ナルトキハ衛兵ヲ檢査スルコトヲ得又衛兵司令ノ報告ヲ聽キ歩哨ノ位置宜ヲ得ルヤ否ヲ檢シ時宜ニ依リ衛兵司令ノ面前ニ於テ歩哨ニ守則ヲ試問スヘシ

第四十四條 特別ノ時機ニ於テ夜間遭遇スル兩巡察又ハ巡察斥候間查スヘキトキハ第三十九條ヲ適用スヘシ

第四章 護送

第四十五條 護送司令ハ其監護スル囚徒或ハ物品ヲ迅速且安全ニ送致スルヲ任トス

囚徒護送ニ當テハ其逃亡ノ機會ヲ生セサル爲メ護送兵ハ途中ニ於テ安ニ停止ス可ラス外人ノ近接スルコトヲ嚴禁シ又時宜ニ依リ往來頻繁人民群聚ノ市街ヲ避テ行進スヘシ
護送ノ囚徒逃亡又ハ物品損失スルトキハ護送司令其事實ヲ詳記シテ速ニ之ヲ衛戍司令官ニ報告スヘシ

第五章 犯人逮捕

第四十六條 衛戍服務ノ軍人左ノ場合ニ於テ犯人ヲ一時逮捕スルコトヲ得
一 重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ルヘキ現行犯人
二 前項ノ犯人逮捕ノ爲メ憲兵又ハ警察官ヨリ援助ヲ請求スル時
三 下士兵卒日夕點呼後勤務ニアラヌ又免職狀ヲ所持セヌシテ營外ニ在ル者
凡 逮捕シタル者軍人又ハ常人タルニ應ジ成ルヘク速ニ憲兵若クハ警察官ニ引渡スヘシ

第六章 兵器ノ實用

第四十七條 衛戍服務ノ軍人兵器ヲ實用シ得ルノ場合左ノ如シ
一 暴徒群衆シテ暴行ニ及ハントスルニ際シ命令ニ依リ之ヲ解散セシムヘキ時
二 囚徒暴行脅迫ヲ以テ護送兵ニ抵抗シ若クハ逃亡セントスル時
三 護送兵人馬又ハ材料ヲ防衛スル爲メ必要ナル場合ニ臨ム時
前數項ノ場合ニ於テ兵器ヲ用フルハ唯其目的ヲ達スルニ必要ナルヲ限リトス且ツ其實彈ヲ發射スルハ特ニ命令アルカ又ハ形勢萬止ムヲ得サルノ時ニ限ル
如何ナル場合ニ在テモ凡テ兵器ヲ實用シタルトキハ其事實ヲ詳記シタル報告書ヲ衛戍司令官ニ呈ス
衛戍司令官此ノ報告ヲ受クルトキハ之ヲ審査シ且之ニ意見ヲ附シ順序ヲ經テ陸軍大臣ニ具申スヘシ

第七章 號砲手

第四十八條 號砲ハ師團司令部所在地發砲ニ在テハ於テ日々正午ニ發放ス
第四十九條 號砲手ハ衛戍司令官ニ屬シ號砲發放ノコトヲ掌ル

● 衛戍病院條例

明治三十一年二月 勅令第二十七號

改正

● 明治三十三年三月 勅令第四百十二號

● 明治三十二年七月 勅令第四百十七號

● 明治三十三年七月 勅令第四百五號

● 明治三十三年十一月 勅令第二百九十三號

朕衛戍病院條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

衛戍病院條例

第一條 衛戍病院ハ衛戍地ニ置キ所在地陸軍部隊管衛學校ヲ包含ス以下同シノ患者ヲ收療シ且衛生材料ノ保管供給及

衛生部下士以下ノ教育ヲ掌ル所トス

衛戍病院ハ衛戍地ノ情況ニ依リ分院ヲ設クルコトヲ得但其ノ設置及位置ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二條 衛戍病院管衛ハ衛戍地兵員ノ多少ニ依リ五等ニ區分ス

衛戍病院及其ノ分院ハ所在ノ地名ヲ冠シ某衛戍病院又ハ某衛戍病院某分院ト稱ス

第三條 衛戍病院ニ左ノ職員ヲ置ク

- 病院長 軍醫
- 藥劑官 軍吏

下士

前項ノ職員中藥劑官ハ五等病院ニ軍吏ハ三等以下ノ病院ニ置カサルヲ例トス

第四條 前條職員ノ外所在地部隊附軍醫ハ病院ノ勤務ニ服スルモノトス

第五條 病院長ハ所在地高級團隊長東武ニ在テハ第一旅團長、西武ニ在テハ第二旅團長、南武ニ在テハ第三旅團長、北武ニ在テハ第四旅團長、要務所在地ニ在テハ要務司令官ニ隸シテ務院ヲ

總理シ院内ノ衛生治病及教育ノ責ニ任ス尙ホ其勤務ニ關シテハ所管軍醫部長ノ督監ヲ受ク

第六條 軍醫以下ノ職員ハ病院長ノ命ヲ受ケ院務ヲ分掌ス所在地部隊附軍醫ノ病院勤務ニ服スル者亦同シ

第七條 入院患者ノ治療ニ關スル諸費ハ病院ノ支辨トス但准士官以上及自費服役ノ一年志願兵並軍屬ニシテ其ノ傷痕疾病公務ニ起因セサル者又ハ公務ノ爲傳染病ニ感染シ手當金ヲ受クル者ハ其ノ定額ヲ納付セシム

第八條 軍人軍屬旅行途上發病シタルトキ其ノ他止ムヲ得サル場合ニ在テハ第一條ノ規定ニ拘ラズ附近衛成病院ニ收療スルコトヲ得現職若クハ現役ヲ離レ又ハ候補生諸生徒ヲ免セラレタル者ニシテ一時收療ヲ要スルトキ亦同シ
前項ノ他廣島衛成病院ニ在テハ臺灣及海外駐留部隊ヨリ航送ノ患者ヲ收療ス其手續ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第九條 營外居住タル軍人軍屬ノ患者ハ入院ヲ要スル者ノ外衛成病院ヨリ藥物療用品ヲ與フルコトナシト雖モ土地ノ情況又ハ救急處置等ノ爲メ止ヲ得サル場合ニ限リ軍醫ノ處方ニ據リ之ヲ與フルコトヲ得但其ノ傷痕疾病公務ニ起因セサル者又ハ公務ノ爲傳染病ニ感染シ手當金ヲ受クル者ハ代價ノ定額ヲ納付セシム

第十條 第七條及第九條ノ定額ハ陸軍大臣之ヲ定ム
附 則

第十一條 本條例ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

● 衛成病院條例細則 明治三十一年二月 陸軍省通第十二號

改正 明治三十二年十月 陸軍省第九號

衛成病院條例細則左ノ通定メ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス
但明治二十一年陸軍省第二百二十三號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

衛成病院條例細則

第一條 條例條成病院條例ヲ 第四條ニ依リ病院勤務ニ服スヘキ軍隊官衛學校附軍醫ノ人員ハ事務ノ繁閑ヲ計リ病院長之ヲ定メ所管軍醫部長ニ稟議スヘシ但師團司令部所在地外ノ病院ニ在テハ其地所在ノ軍隊官衛附軍醫總ヲ病院勤務ニ服スル者トス

第二條 病院長ハ條例第四條ニ於ケル軍醫ノ材能其ノ他勤務上ニ係ル事項ヲ詳悉シ考科ノ用ニ供スル爲メ所管軍醫部長ニ報告スヘシ
第三條 病院長不在ノトキハ所在地隊附軍醫及病院附軍醫中高級ノ者之カ代理ヲ爲スモノトス
第四條 病院勤務ニ服スル歩兵聯隊附三等軍醫正ハ若干ノ病室ヲ分擔シテ患者ノ治療其ノ他ノ事務ヲ掌理シ兼テ一等軍醫以下ノ勤務ヲ監視ス

第五條 一等軍醫ハ院務ヲ分擔ス其ノ掌務ノ概目左ノ如シ
一 患者ノ治療攝生及之ニ連繫スル事項
二 治療記事、衛生記事及衛生統計ノ調査編纂
三 患者入退ノ取扱及診斷證書ノ調製
四 外來患者ノ診斷
五 轉地療養ニ關スル事項

- 六 具申照會其ノ他文書ニ關スル事項
- 七 院內人事ニ關スル事項
- 八 病床日誌及處方録其ノ他後證書類ノ保存
- 九 衛生部下士ノ訓導、看病人ノ教育及其ノ勤務行狀ノ監視
- 十 衛生部下士候補者及看護學修業兵ノ教育ニ關スル事項
- 第六條 二三等軍醫ハ一等軍醫ヲ輔佐シテ分擔ノ事務ニ服シ一等軍醫不在ノトキハ其ノ掌務ヲ代理ス
- 第七條 藥劑官ハ看護長以下ノ勤務ニ注意シ患者ヲシテ院內ノ規定ヲ遵守セシム
- 一 衛生材料ノ鑑査、新調、支給、交換及保存、修理、
- 二 調劑、製藥及理化學の試驗
- 三 藥物、治療消耗品、治療器械等ニ關スル報告
- 四 衛生部下士候補者ノ教育、見習藥劑官、藥劑生、調劑助手ノ訓導及其ノ勤務行狀ノ監視
- 第八條 軍吏ハ概テ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 經費ニ係ル計算及報告
 - 二 衛生材料及消耗品、器具器械、用度等ノ買辦修理
 - 三 糧食、被服其ノ他諸給與
 - 四 厨夫、洗濯夫、裁縫職工等ノ使用
- 第九條 藥劑官、軍吏ヲ置カサル病院ニ於ケル其ノ分掌事務ハ軍醫及下士ヲシテ扱ハシム
- 第十條 退職後ニ於ケル臨時ノ事務ヲ處理セシムル爲メニ宿直ヲ置ク其ノ人員ハ病院長之ヲ定ム
- 第十一條 條例第八條ニ據リ特ニ收療シ得ヘキ者左ノ如シ

- 一 部隊附軍人軍屬ニシテ演習其他旅行途上傷痍疾病ニ依リ入院治療ヲ要スル者
 - 二 入院中現職若クハ現役、常備後備役又ハ兵役又ハ候補生諸生徒ヲ免セラレ又ハ召集ヲ解除セラレタル者ニシテ現時ノ症狀ニ依リ退院セシメ難キトキ
 - 三 下士兵卒ニシテ現役、常備後備役又ハ兵役ヲ免セラレ或ハ召集ヲ解除セラレタル者歸郷途上傷痍疾病ニ依リ歸郷シ得サルトキ
 - 四 某衛戍病院ヨリ他ノ病院ニ轉送スル途中收療ヲ要スルトキ
 - 五 衛戍病院ヲ置カサル地ノ部隊患者ニシテ特ニ收療ヲ要スルトキ
- 第十二條 第十一條第一、第三及第四ノ場合ニ於テ附近ニ衛戍病院ナキトキハ部隊又ハ護送員ヨリ地方病院若クハ地方醫師ニ其ノ治療ヲ依託スルコトヲ得
- 前項治療ニ關スル費用ハ所屬部隊募集解散ノ者ハ各所在地ノ衛戍病院、轉送中ノ者ハ其ノ發送シタル衛戍病院、條例第八條第二項ノ患者中全回復隊又ハ除役歸郷途上ノ者ハ廣島衛戍病院ノ支辨トス但准士官以上及自費服役ノ一年志願兵並軍屬ニシテ其ノ傷痍疾病公務ニ基因セサル者ハ此限ニアラス

第十四節 聯隊區司令部

● 聯隊區司令部條例

明治二十九年三月 勅令第百五十六號

改正

● 明治三十二年十月 勅令第四百七號

● 明治三十五年九月 勅令第百九號

● 明治三十六年二月 勅令第百一十一號

朕聯隊區司令部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

聯隊區司令部條例

第一條 各聯隊區ニ司令部ヲ置ク其職員左ノ如シ

司令官

佐官

副官

大(中)尉

書記

書記ハ現役、豫備、後備ノモノヲ以テ充ツルコトヲ得

第二條 司令官ハ師團長ニ隸シ聯隊區内徵兵事務及召集事務ヲ掌ル但シ徵兵事務ニ關シテハ尙當該旅管ニ於ケル歩兵旅團長ノ監督ヲ受ク

第三條 司令官ハ聯隊區内ニ現在スル在郷陸軍軍人及各補充兵役ニ在ル者ノ身上異動其他ノ願届ニ關スル事ヲ掌ル

第四條 副官ハ司令部一般ノ事務ニ服ス

第五條 書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ記注計算ノ事ニ從フ

第六條 聯隊區司令部ノ位置ハ陸軍大臣之ヲ定ム

○ 聯隊區司令部位置

明治三十二年十二月 陸軍省告示第十八號

改正

●明治三十三年六月 告示第十二號

●明治三十六年三月 告示第四號

聯隊區司令部條例第六條ニ依リ司令部ノ位置ヲ左ノ通定ム

鹿兒島聯隊區司令部
宮崎聯隊區司令部
札幌聯隊區司令部
函館聯隊區司令部
釧路聯隊區司令部
旭川聯隊區司令部
弘前聯隊區司令部
宇都宮聯隊區司令部
仙台聯隊區司令部
新發田聯隊區司令部
柏崎聯隊區司令部
名古屋聯隊區司令部
津島聯隊區司令部
豐橋聯隊區司令部
盛岡聯隊區司令部
秋田聯隊區司令部
山形聯隊區司令部

鹿兒島縣鹿兒島市
宮崎縣宮崎郡宮崎町
北海道札幌區
北海道函館區
北海道釧路區
北海道石狩國上川郡永山村
青森縣弘前市
栃木縣宇都宮市
宮城縣仙臺市
福島縣須賀川郡福島町
新潟縣北蒲原郡新發田木村
新潟縣刈羽郡柏崎町
愛知縣名古屋市
三重縣津市
愛知縣南英郡豐橋町
關東縣盛岡市
秋田縣秋田市
山形縣山形市

金澤聯隊區司令部
富山聯隊區司令部
鯖江聯隊區司令部
岐阜聯隊區司令部
和知山聯隊區司令部
神戶聯隊區司令部
姫路聯隊區司令部
鳥取聯隊區司令部

石川縣金澤市
富山縣富山市
福井縣今立郡鯖江町
岐阜縣稻葉郡上加納村
京都府天田郡和知山町
兵庫縣戶市
兵庫縣姫路市
鳥取縣鳥取市

丸龜聯隊區司令部
德島聯隊區司令部
松山聯隊區司令部
高知聯隊區司令部
小倉聯隊區司令部
大分聯隊區司令部
福岡聯隊區司令部
久留米聯隊區司令部

香川縣丸龜市
德島縣德島市
愛媛縣松山市
高知縣高知市
福岡縣企救郡小倉町
大分縣大分郡大分町
福岡縣福岡市
福岡縣久留米市

● 聯隊區司令部服務規則

明治二十九年四月
陸軍省令第百六十七號

改正

● 明治二十九年六月
陸軍省令第百九號

● 明治三十年三月
陸軍省令第百二十六號

● 明治三十一年三月
陸軍省令第百二十五號

● 明治三十三年十一月
陸軍省令第百十五號

● 明治三十五年九月
陸軍省令第百九十二號

聯隊區司令部服務規則左ノ通定ム

聯隊區司令部服務規則

第一條 聯隊區司令部ノ事務ハ軍隊及地方ニ直接ノ關係ヲ有スルヲ以テ司令官ハ常ニ彼此ノ事情ヲ詳ニシ法律命令ノ範圍内ニ於テ其行務ヲ考按計畫シ部事ヲ整頓シ就中召集事務ハ有事ノ日ニ方リ毫モ遺算ナキヲ期スルヲ以テ責任トス

第二條 司令官ハ司令部職員及部務補助ノ爲派遣セラレタル將校以下ノ事務分掌ヲ定ムヘシ

第三條 司令官ハ師團長ノ認可ヲ得テ臨時聯隊區内ヲ巡視スルコトヲ得

第四條 司令官ハ部内ノ職員ヲ管内島廳郡市役所若クハ町村役場等ニ差遣スルコトヲ得

第五條 司令官ハ事務特ニ繁劇ノトキハ臨時傭人ヲ使用スルコトヲ得但成ルヘク其地所在ノ豫備役後備役ノ下士兵卒ヲ使用スヘシ

第六條 (削除)

第七條 副官ハ部内ノ事務ヲ管理シ稟申申請照會回答等ノ文書ヲ起草シ及書記ノ勤惰ヲ監視シ部内一切ノ取締ニ任シ且廳印ヲ管守スヘシ

第八條 (削除)

第九條 (削除)

第十條 (削除)

第十一條 書記ハ司令部ノ事務ニ服シ他向ヨリ到來スル一切ノ文書ヲ受領シ其親展ニ非サルモノハ總

ヲ開封シ之ニ受領番號ヲ附シ副官ニ差出スヘシ

第十二條 (削除)

第十三條 聯隊區司令部ニ備置クヘキ簿冊左ノ如シ

- 一 上申録
- 二 往復録
- 三 豫備役將校同相當官兵籍及戰時名簿
- 四 後備役將校同相當官兵籍及戰時名簿
- 五 豫備役下士兵籍及戰時名簿
- 六 後備役下士兵籍及戰時名簿
- 七 豫備役兵卒兵籍及戰時名簿
- 八 後備役兵卒兵籍及戰時名簿
- 九 第一補充兵召集ニ應ジタル者兵籍及戰時名簿
- 十 未教育第一補充兵及第二補充兵ノ補充兵名簿召集ニ應ジタル者及第二補充兵ノ補充兵名簿在リテハ其ノ兵籍及戰時名簿
- 十一 充員召集名簿
- 十二 待命員名簿
- 十三 歸休兵兵籍及戰時名簿
- 十四 抽籤名簿
- 第十五條 凡兵籍後備役補充兵及後備役補充兵ノ兵籍ヲ分チ編綴シ増減異動アル毎ニ加除訂正スヘシ

補充兵名簿ハ前項ト同一ノ取扱ヲナスヘシ但シ第一補充兵輸重輸卒ノ補充兵名簿ハ本人召集ニ應シタル後ハ之ヲ保存スルヲ要セス

第十五條 上申録往復録ハ十箇年間保存スヘシ

第十六條 後備兵役、補充兵役滿期並ニ傷疾疾病ニ由リ常備後備役、補充兵役免除、兵役免除トナリ

又ハ服役十二箇年四箇月ヲ過キ若クハ現役年限年齡ニ滿チ免官免役トナリタル者及ヒ死亡者ノ兵籍ハ種類ヲ分チ之ヲ別冊トナシ三箇年間保存スヘシ

恩給ヲ受クヘキ資格アル者ノ兵籍ハ其家族扶助料ヲ受クヘキ資格消滅ニ至ル迄保存スヘシ但資格ノ消滅ハ陸軍省ヨリ通報ス

第十七條 (削除)

第十八條 充員召集名簿待命員名簿ハ動員計畫年度經過後棄却シ抽籤名簿ハ三箇年間保存スヘシ

第十九條 (削除)

第二十條 豫備役後備役下士兵卒歸休兵及第一補充兵中勤務演習召集ノ猶豫若クハ簡閱點呼免除ヲ願

出ル者アルトキハ其事實ヲ審覈シ確實ト認ムルモノハ許可ノ指令ヲ爲スヘシ

第二十一條 豫備役後備役將校同相當官下士兵卒歸休兵及第一補充兵中寄留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲シコトヲ許可ノ者アルトキハ之ヲ寄留地聯隊區司令部又ハ警備隊司令部ニ通報スヘシ寄留地聯

隊區ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ許可シタル者アルトキ亦同シ

第二十二條 前條ノ通牒ヲ爲シタル後勤務演習召集又ハ簡閱點呼ヲ免除セラレ若ハ充員召集に應シ其

ノ他勤務演習召集又ハ簡閱點呼ノ施行ヲ要セサル者ヲ生ヌルトキハ其旨更ニ寄留地聯隊區司令部又

ハ警備隊司令部ニ通報スヘシ

第二十三條 豫備役後備役下士兵卒歸休兵及ヒ補充兵中永久服役ニ堪ヘサル旨届出ル者アルトキハ聯

隊區司令官其ノ事實ヲ審覈シ確實ト認タルモノハ師團長ニ上申シ兵役免除ノ處分ヲ請フヘシ但シ疑

徴シ然ル後本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十四條 (削除)

第二十五條 豫備役後備役下士兵卒歸休兵及補充兵ノ願届書ハ總テ一通ヲ出サシメ其指令ヲ與フヘキ

モノハ願届書ノ末尾ニ其ノ要領ヲ記シ司令官ノ署名押印ヲ爲シ本人ニ交付スヘシ

總テ指令ヲ與ヘタルモノハ其ノ要旨ヲ記シ保存スヘシ

第二十六條 聯隊區司令部ニハ書記一名交替ニ宿直ヲ爲サシムルモノトス

第二十七條 (削除)

第二十八條 本則ハ之ヲ警備隊司令部及警備隊區司令部ニ適用ス

附錄第一様式 (削除)

附錄第二様式 (削除)

第十五節 沖繩警備隊區司令部

● 沖繩警備隊區司令部條例 明治三十一年三月 勅令第三十六號

改正 ● 明治三十三年十月 勅令第四百九號 ● 明治三十五年九月 勅令第二百十號 ● 明治三十六年二月 勅令第十二號

朕沖繩警備隊區司令部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

沖繩警備隊區司令部條例

第一條 沖繩警備隊區司令部ヲ置ク其ノ職員左ノ如シ

司令官 佐官

副官 大尉(中尉)

書記

書記ハ現役、豫備役、後備役ノモノヲ以テ充ツルコトヲ得

第二條 司令官ハ第六師團長ニ隸シ警備隊區内徵兵事務及召集事務ヲ掌ル但シ徵兵事務ニ關シテハ尙

當該旅管ニ於ケル步兵旅團長ノ監督ヲ受ク

第三條 司令官ハ警備隊區内ニ現在スル在郷陸軍軍人及各補充兵役ニ在ル者ノ身上異動其ノ他願届ニ

關スルコトヲ掌ル

第四條 副官ハ司令部一般ノ事務ニ服ス

第五條 書記ハ上官ノ指揮ヲ受ケ記注計算ノ事ニ從フ

第六條 警備隊區司令部ノ位置ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附則

第七條 従前ノ命令ニシテ聯隊區司令官ノ管掌ニ屬スル事項ハ沖繩警備隊區ニ在テハ該司令官ニ於テ處理スヘキモノトス

第八條 本條例ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

○沖繩警備隊區司令部位置

明治三十二年十二月 陸軍省告示第十九號

沖繩警備隊區司令部條例第六條ニ依リ司令部ノ位置ヲ左ノ通定ム
沖繩警備隊區司令部 沖繩縣那覇區

●第十六節 軍馬補充部

●軍馬補充部條例

明治二十九年五月 勅令第三百九十三號

改正

●明治三十三年九月 勅令第三百八十三號

朕軍馬補充部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍馬補充部條例

第一條 軍馬補充部ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ軍馬ノ供給、育成購買並ニ軍馬ノ資源ノ調査ヲ掌ル所トス

第二條 軍馬補充部ハ本部及ヒ支部ヨリ成リ本部ハ東京ニ支部ハ第一、第二、第六、第七、第八及第十師管下ニ一箇若クハ二箇ヲ置キ軍馬補充部某地支部ト稱ス支部ハ三等ニ區分シ其設置及地位ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三條 軍馬補充部本部及支部ニ左ノ職員ヲ置ク

本部

本部長

陸軍少將騎兵大佐

部員

騎兵中少佐大尉

軍史

技師

支部

支部長

騎兵中少佐大尉

騎兵大中少尉

三四〇二

部員

獸醫

軍吏

第四條 前條ニ掲クル職員ノ外本部及支部ニ下士屬技手ヲ置ク

第五條 本部長ハ陸軍大臣ニ隸シ軍馬補充部ノ業務ヲ總理ス

第六條 部長ハ本部長ニ屬シ軍馬ノ供給及育成ニ關スル業務ヲ分擔シ特ニ牧場事業ノ整理ニ任ス

第七條 本部及支部ノ部員、獸醫及軍吏等ハ各其長ノ命ヲ受ケテ本部又ハ支部ノ業務ヲ處理ス

第八條 陸軍大臣ハ要所ニ應シ支部ノ派出部及出張所ヲ設ケ支部ノ部員ヲ以テ派出部長ニ充ルコトヲ

得

附則

第九條 明治二十六年勅令第二十七號軍馬補充署條例ハ廢止ス

第十七節 衛生材料廠

● 陸軍衛生材料廠條例 明治三十二年十月
勅令第四百十六號

改正 明治三十五年一月
勅令第十號 明治三十五年七月
勅令第四百八十九號

朕陸軍衛生材料廠條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍衛生材料廠條例

第一條 陸軍衛生材料廠ハ衛生材料獸醫材料ノ模範品及戰用豫備品ノ製作、購買、貯藏、交換、品質ノ審査並戰時ニ於ケル材料ノ補給及外國駐屯ノ部隊ニ要スル材料ノ購買、補給ヲ行フ所トス

第二條 陸軍衛生材料廠ニ左ノ職員ヲ置ク

廠長

廠員

副監督

前項ノ外下士、判任文官ヲ置ク

第三條 廠長ハ陸軍省醫務局長ニ隸シ廠務ヲ掌理ス但シ獸醫材料ニ關シテハ軍務局長、醫務局長協議ノ上之ヲ區域ス

第四條 廠員及副監督ハ廠長ノ命ヲ承ケ廠務ニ服ス

●第十八節 築城部

●築城部條例

明治三十六年四月
勅令第百七十七號

朕築城部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

築城部條例

第一條 築城部ハ防禦營造物ノ建築検査及防禦營造物ニ關スル砲兵事業ノ調査並工兵事業ヲ掌リ工事
中ノ防禦營造物及國防用ノ土地並軍用鐵道及其ノ敷地ヲ管理ス

第二條 築城部ハ築城部本部及築城部支部ヨリ成ル

本部ハ之ヲ東京ニ置キ支部ハ之ヲ二等ニ分チ防禦營造物ノ建築上必要ノ場所ニ設置ス
支部ノ位置及等級ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三條 築城部ニ左ノ職員ヲ置ク

本部

本部長

部員

副監督

技師

支部

支部長

部員

右ニ掲クル職員ノ外本支部ニ准士官下士及判任文官ヲ置ク

- 第四條 本部長ハ陸軍大臣ニ隸シ築城部ノ事務ヲ總理ス
 - 第五條 本部長防禦營造物ノ検査ヲ行ヒタルトキハ其ノ狀況ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ
 - 第六條 支部長ハ本部長ニ隸シ支部ノ事務ヲ掌理ス
 - 第七條 本部ノ部員及副監督ハ本部長ノ命ヲ受ケ支部ノ部員ハ支部長ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス
 - 第八條 技師ハ本部長ノ命ヲ受ケ技術上ノ調査ニ従事ス
 - 第九條 准士官下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス
 - 第十條 本部長ハ要塞ニ於ケル防禦營造物ノ新築改築増築及國防用土地ノ管理ニ關シテハ當該要塞司令部對馬ニ在リテハ對馬警備隊司令部部員タル工兵科將校ヲ指揮ス
- 附則
本條例ハ明治三十六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九節 技術審査部

陸軍技術審査部條例

明治三十六年四月
勅令第八十一號

朕陸軍技術審査部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
陸軍技術審査部條例

第一條 陸軍技術審査部ハ砲工兵技術兵器材料ニ關スル事項ヲ研究調査シテ陸軍大臣ニ意見ヲ具申シ又ハ其ノ諮詢ニ應ス

第二條 陸軍技術審査部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

議員

事務官

審査官

准士官下士及判任文官

第三條 部長ハ陸軍大臣ニ隸シ部内一切ノ事務ヲ管理ス

第四條 部長ハ陸軍大臣ヨリ諮詢ヲ受ケタルトキハ議員ヲ集メ會議ヲ開クヘシ但シ陸軍大臣ニ於テ會議ニ附スル必要ナシトシタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 部長ハ前條ノ外重要ナル事項ニシテ會議ニ附スルノ必要アリト認メタル場合ニ於テハ會議ヲ開クコトヲ得

第六條 部長ハ會議ノ議長ト爲リ議事ヲ整理ス

部長ハ議事規則ヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第七條 議員ハ他ニ本職アル者ヲ以テ之ニ充ツ
會議ノ必要ニ依リ臨時ニ議員ヲ命ゼラレタル者ハ會議ヲ終レハ直ニ解任スルモノトス

議員中高級故參ノ者ハ議長不在ノトキ代理ヲ爲スヘシ

第八條 會議ハ其ノ議事ニ關係アル議員ヲ集メテ之ヲ開クモノトス
議員中將官ハ何レノ會議ニモ列スルモノトス

第九條 陸軍省軍務局長及軍務局課長ハ其ノ關係ノ事項ニ就テハ隨時會議ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第十條 事務官ハ部長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第十一條 審査官ハ部長ノ命ヲ受ケ研究調査ヲ擔任ス

審査官ハ會議ニ列シ擔任ノ事項ニ就キ説明ヲ爲シ且會議ニ關スル事務ヲ整理ス

第十二條 准士官下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

第十三條 陸軍技術審査部ニ於テ試驗ノ爲ニ必要ナリト認ムル事項アルトキハ部長ハ教育總監又ハ師團長ニ稟議シ學校若ハ軍隊ヲシテ之ヲ實施セシメ又ハ必要ナル人馬材料ヲ供用セシムルコトヲ得

附則
本條例ハ明治三十六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十二年勅令第十二號陸軍砲兵會議條例及明治三十年勅令第二百三十七號陸軍工兵會議條例ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十節 兵器廠

● 陸軍兵器廠條例 明治三十六年四月勅令第七十八號

朕陸軍兵器廠條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍兵器廠條例

第一條 陸軍兵器廠ハ兵器ノ購買貯藏保存修理支給交換及検査並要藥ノ備砲工事ヲ掌ル

第二條 兵器廠ハ兵器木廠兵器支廠及兵器分廠ヨリ成ル

本廠ハ之ヲ東京ニ置ク

支廠ハ師團司令部所在地臺北及四司ニ置キ本廠ノ事務ヲ分掌セシム

分廠ハ臺中及臺南ニ置キ臺北兵器支廠ノ事務ヲ分掌セシム

第三條 兵器廠ニ左ノ職員ヲ置ク

本廠長

廠員

検査官

監督

支廠

支廠長

廠員

分廠

分廠長

右ニ掲クル職員ノ外准士官下士及判任文官ヲ置ク

第四條 本廠長ハ陸軍大臣ニ隸シ兵器廠ノ事務ヲ總理ス

第五條 支廠長ハ本廠長ノ命ヲ受ケ支廠ノ事務ヲ管理ス

第六條 分廠長ハ臺北兵器支廠長ノ命ヲ受ケ分廠ノ事務ヲ管理ス

第七條 本廠ノ職員及監督ハ本廠長ノ命ヲ受ケ支廠ノ職員ハ支廠長ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

第八條 検査官ハ本廠長ノ命ヲ受ケ砲兵工廠ノ軍用製作品及兵器廠購買ニ係ル兵器材料ノ検査ニ任

ス

検査官及之ニ屬スル准士官下士及判任文官ハ砲兵工廠ニ在リテ其ノ勤務ニ服セシム

第九條 准士官下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

第十條 支廠長及分廠長ハ師團臺灣守備混成旅團ノ兵器ニ就テハ當該師團長混成旅團長ノ命ヲ受ク

臺北兵器支廠長ハ戰時若ハ事變ニ際シ又ハ臺灣ニ於ケル動員計畫ニ關シテハ臺灣總督ノ命ヲ受ク

第十一條 兵器本廠長ハ要塞ノ備砲工事及要塞所在地軍隊官術學校所要兵器ノ支給交換ニ關シテハ當

該要塞司令部對馬ニ在リテハ對馬警備隊司令部部員タル砲兵科將校ヲ指揮ス

第十二條 砲兵工廠派出所ノ事務ハ該所在地兵器支廠長之ヲ管掌シ其ノ事務ニ關シテハ當該砲兵工廠

提理ノ區處ヲ受ク

第十三條 兵器廠保管ノ武器庫彈藥庫器具庫及材料庫ニシテ衛兵ヲ置クノ必要アルトキハ兵器本廠長

支廠長分廠長ハ之ヲ衛戍司令官ニ請求スルコトヲ得

前項ノ外武器庫彈藥庫器具庫及材料庫ニ准士官下士ヲ置クコトヲ得

附則

本條例ハ明治三十六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十一節 砲兵工廠

● 砲兵工廠條例

明治三十三年四月
勅令第百五十九號

改正

● 明治三十三年九月
勅令第百七十號

● 明治三十六年四月
勅令第七十六號

朕砲兵工廠條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砲兵工廠條例

第一條 砲兵工廠ハ陸軍所要ノ兵器ヲ製造修理シ及海軍所要ノ火藥ヲ製造スル所トス

第二條 砲兵工廠ハ之ヲ東京及大阪ニ置ク

製造所ヲ設クルコト左ノ如シ

東京砲兵工廠

小銃製造所

銃包製造所

砲具製造所

目藥火藥製造所

板橋火藥製造所

岩鼻火藥製造所

大阪砲兵工廠

火砲製造所

砲架製造所

彈丸製造所

火具製造所

宇治火藥製造所

門司兵器製造所

第三條 陸軍兵器支廠所在地ニハ所要ニ應シ砲兵工廠ノ派出所ヲ置キ陸軍兵器支廠長ヲシテ其ノ業務ヲ管掌セシム但其位置ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條 砲兵工廠ニ左ノ職員ヲ置ク

提理 廠員

製造所長 所員

監督 軍醫

技師

右ニ掲シル職員ノ外准士官、下士及判任文官ヲ置ク

第五條 提理ハ陸軍大臣ニ隸シ工廠ノ業務ヲ總理シ且シ工廠ノ建築ニ關スル事項ヲ管掌ス

東京砲兵工廠提理ハ陸軍火藥研究所及砲兵工科學校ヲ管轄ス

第六條 廠員ハ提理ノ命ヲ受ケ庶務ヲ分擔ス

第七條 製造所長ハ提理ニ隸シ製造所ノ業務ヲ擔任シ所員ハ所長ノ命ヲ受ケ所務ニ服ス

東京砲兵工廠製造所長ハ前項ノ外砲兵工科學校ノ實業教授ヲ擔任ス

第八條 監督、軍醫、技師ハ各分擔ノ事務ニ服ス

第九條 派出所ニハ所要ノ人員ヲ分遣シ陸軍兵器支廠長ノ命ヲ受ケ兵器ノ製造修理ニ關スル費用及材料素品ノ出納ヲ掌ラシム

第十條 軍用ノ兵器ハ陸軍所要ノ爲メ製造スルモノノ外陸軍大臣ノ許可ヲ經ルニアラサレハ製造スルコトヲ得メ但シ陸軍技術審査部ヨリ試驗用ノ爲メ要求スルモノ並海軍所要ノ火藥類ハ此ノ限ニアラズ

第十一條 官廳又ハ人民ヨリ火藥類及物品ノ製造ヲ依頼スルトキハ軍用ノ製造事業ニ妨ケナキ限リハ之ニ應スルコトヲ得

第十二條 砲兵工廠ニ於テ警戒ヲ要スル事アルトキハ提理ヨリ衛戍司令官ニ衛兵ノ派遣ヲ請フコトヲ得但シ遠隔セル製造所ニ在リテハ所長ヨリ直ニ衛戍司令官ニ衛兵ノ派遣ヲ請フコトヲ得

● 第二十二節 被服廠

● 陸軍被服廠條例

明治三十五年一月
勅令第二十三號

朕陸軍被服廠條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍被服廠條例

第一條 陸軍被服廠ハ陸軍被服品ノ調辨、製造、貯藏、補給等ノ事ヲ掌リ且被服ニ係ル試驗ヲ行フ所トス

第二條 陸軍被服廠ハ之ヲ東京ニ置ク但シ必要ニ際シ支廠若ハ派出所ヲ置クコトヲ得

第三條 陸軍被服廠ニ左ノ職員ヲ置ク

廠長

廠員

技師

准士官下士並判任文官技手

第四條 廠長ハ陸軍大臣ニ隸シ廠務ヲ總理ス

第五條 廠員以下ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

附則

本令ハ明治三十五年二月一日ヨリ施行ス

● 第二十三節 千住製絨所

● 千住製絨所官制 明治二十六年十月 勅令第百四十一號

改正 明治三十二年三月 勅令第七十九號 明治三十五年三月 勅令第八十四號

朕千住製絨所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

千住製絨所官制

第一條 千住製絨所ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ陸軍所用ノ絨布製造ノ事ヲ掌ル
官廳又ハ人民ヨリ絨布ノ製造ヲ依頼スルトキハ陸軍所用ノ絨布製造事業ニ妨ケナキ限リハ之ニ應ス
ルコトヲ得

第二條 千住製絨所ニ左ノ職員ヲ置ク

- 所長 一人
- 事務官 一人
- 技師 二人
- 屬 八人
- 技手 三十二人

第三條 所長ハ奏任トス陸軍大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ掌理ス
 第三條ノ二 事務官ハ奏任トス上官ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌ル
 第四條 技師ハ所長ノ指揮監督ヲ承ケ製絨ノ事ヲ掌理ス
 第五條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ製絨ノ事ニ從フ

附則

第七條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

第二十四節 糧秣廠

● 陸軍糧秣廠條例 明治三十五年一月 勅令第二十一號

朕陸軍糧秣廠條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍糧秣廠條例

第一條 陸軍糧秣廠ハ戰用糧秣ノ調辦、製造、貯藏、補給等ノ事ヲ掌リ且糧秣ニ係ル試驗ヲ行フ所トス

第二條 陸軍糧秣廠ハ之ヲ東京ニ置ク但シ必要ニ際シ支廠若クハ派出所ヲ置クコトヲ得

第三條 陸軍糧秣廠ニ左ノ職員ヲ置ク

廠長

廠員

技師

下士並判任文官技手

第四條 廠長ハ陸軍大臣ニ隸シ廠務ヲ總理ス

第五條 廠員以下ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

附則

本令ハ明治三十五年二月一日ヨリ施行ス

明治三十年勅令第二十八號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第二十五節 火藥研究所

● 陸軍火藥研究所條例

明治三十六年四月
勅令第八十二號

朕陸軍火藥研究所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍火藥研究所條例

第一條 陸軍火藥研究所ハ火藥ニ關スル事項ヲ研究調査ス

第二條 火藥研究所ハ之ヲ東京砲兵工廠板橋火藥製造所内ニ置ク

第三條 火藥研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

所員

准士官下士及判任文官

右ニ掲クル職員ノ外本職アル海軍將校同相當官若ハ海軍技師ヲシテ本所所員ヲ兼務セシメ又本職アル海軍技師ヲシテ本所ノ業務ニ從事セシムルコトヲ得

第四條 所長ハ東京砲兵工廠提理ニ隸シ研究所ノ業務ヲ管理ス

所長ハ研究事項ニ關シ陸軍技術審査部長ノ區處ヲ受ク

第五條 所員ハ所長ノ命ヲ受ケ研究調査ニ從事ス

第六條 准士官下士及判任文官ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

第七條 陸軍大臣ハ火藥ニ關スル事項ヲ研究實驗セシムル爲軍隊官衛學校ヨリ將校准士官及下士ヲ火藥研究所ニ派遣スルコトアルヘシ

附則

本條例ハ明治三十六年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十六節 監督部

陸軍監督部條例

明治三十五年一月
勅令第十九號

朕陸軍監督部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍監督部條例

第一條 陸軍監督部ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍各部ノ會計經理ヲ監督ス

第二條 監督部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

部員

准士官下士並列任文官

第三條 部長ハ陸軍大臣ニ隸シ部務ヲ總理ス

第四條 部長ハ陸軍各部ノ會計經理ノ検査ヲ行フヘシ

第五條 部長ハ師團並臺灣陸軍經理部管轄以外ノ官術學校ノ廢品處分ヲ承認ス但シ當該長官ニ之ヲ任スルコトヲ得

第六條 部長ハ會計上ニ關シ必要アルトキハ當該長官若ハ主任官並ニ質問シ辨明ヲ求ルコトヲ得

第七條 部員ハ部長ノ命ヲ受ケ部務ヲ分掌ス

第八條 准士官以下ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

附則

本令ハ明治三十五年二月一日ヨリ施行ス

| 考 備 | 二 十 | |
|-----|------|----|
| | 三十二第 | 二十 |
| | 大村 | 大分 |
| 一 | 五島 | 大分 |
| 二 | 長崎 | 宮崎 |
| 三 | 長崎 | 宮崎 |

一 師管ノ番號ハ師團ノ番號ト、旅管ノ番號ハ步兵旅團ノ番號ト同一トス
 二 警備隊配置ハ東京府小笠原島ハ麻布副師團ニ、新潟縣佐渡郡ハ柏崎副師團ニ、島根縣周吉、
 福地、海士、知夫四郡（隱岐）ハ濱田師團ニ、鹿兒島縣大島、熊毛二郡ハ鹿兒島師團ニ、
 長崎縣南松浦郡ハ大村師團ニ屬ス
 三 警備ノ管區ハ追々之ヲ定ム

| 第 | 一 十 第 | | 十 第 | | 九 第 | | 八 第 | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|-------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|
| | 二十二第 | 十 第 | 十二 第 | 八 第 | 八十第 | 六 第 | 六十第 | 四 第 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 小倉 | 徳島 | 丸龜 | 高知 | 松山 | 神戶 | 福知山 | 鳥取 | 姫路 | 岡山 | 京都 | 大阪 | 神戸 | 徳島 | 香川 | 高知 | 愛媛 | 宮崎 | 大分 | 福岡 | 熊本 | 鹿兒島 |
| 小倉 | 徳島 | 丸龜 | 高知 | 松山 | 神戶 | 福知山 | 鳥取 | 姫路 | 岡山 | 京都 | 大阪 | 神戸 | 徳島 | 香川 | 高知 | 愛媛 | 宮崎 | 大分 | 福岡 | 熊本 | 鹿兒島 | 鹿児島 |

| 第六 | | 第五 | | | 第四 | | |
|---------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 熊本市 | | 熊本市 | | | 熊本市 | | |
| 米田 | 鹿島 | 水熊 | 海志 | 吳 | 山口 | 田濱 | 島 |
| 米田町 | 鹿島町 | 水熊町 | 海志町 | 吳町 | 山口町 | 田濱町 | 島町 |
| 久留米市三井町三井町八七町山門町三池町 | 宮崎町 | 熊本市 | 熊本市 | 熊本市 | 熊本市 | 熊本市 | 熊本市 |
| 久留米市三井町三井町八七町山門町三池町 | 宮崎町 | 熊本市 | 熊本市 | 熊本市 | 熊本市 | 熊本市 | 熊本市 |

| 第四 | | 第三 | | 第二 | |
|----|----|----|----|----|----|
| 大府 | | 愛知 | | 宮城 | |
| 大府 | 愛知 | 宮城 | 宮城 | 宮城 | 宮城 |
| 大府 | 愛知 | 宮城 | 宮城 | 宮城 | 宮城 |
| 大府 | 愛知 | 宮城 | 宮城 | 宮城 | 宮城 |

| 十 | | 二 | |
|------------------------------|-----------------------------------|---|----------------------------|
| 關下 | 嶺長 | 保田佐 | 馬對 |
| 山口縣 小倉市 萬城內 | 長崎縣 長崎市 四日市 | 佐賀縣 佐賀市 島原市 | 長崎縣 長崎市 上縣郡下縣郡 |
| 山口縣 下市郡 小倉分隊管區ニ屬スル郡ヲ除ク | 長崎縣 長崎市四日市郡 佐世保分隊管區ニ屬スル村ヲ除ク | 佐賀縣 佐世保市北松浦郡東彼杵郡 日宇村早岐村所々瀬村上 波佐見村下波佐見村川堀 村廣川村宮村江 四彼杵郡 磯原村瀬川村小村而島 村七釜村多良村黒瀬村 佐賀郡四松浦郡東松浦郡 | 山口縣 門司市 |
| 關下 山口縣 小倉市 萬城內 | 嶺長 長崎縣 長崎市 四日市 | 保田佐 佐賀縣 佐賀市 島原市 | 馬對 長崎縣 長崎市 上縣郡下縣郡 |

●第二十八節 臨時中央金櫃部

●臨時陸軍中央金櫃部條例 明治二十七年六月 勅令第六十二號

改正 ●明治二十八年五月 勅令第六十號

朕臨時陸軍中央金櫃部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時陸軍中央金櫃部條例

第一條 臨時陸軍中央金櫃部ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ東京ニ置キ臨時陸軍經費ニ關スル收入支出及其ノ計算報告ノ事ヲ掌ル所トス

第二條 臨時陸軍中央金櫃部ニ左ノ職員ヲ置ク

金櫃部長 一等軍吏 一人

計算官 二、三等軍吏 十人

第三條 金櫃部長ハ陸軍省經理局長ニ隸シ其ノ指揮監督ヲ承ケ金錢收支ニ就テハ經理局長第三課長ノ命令ヲ承クヘシ

第四條 金櫃部長ハ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ就テハ其ノ責ニ任ス

第五條 計算官ハ金櫃部長ノ指揮ヲ承ケ部務ヲ分掌ス

第六條 第二條職員ノ外ニ一、二、三等書記若クハ屬ヲ置キ其ノ定員ハ通シテ三十人トス上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

●第二十九節 電信教導大隊

●陸軍電信教導大隊條例

明治三十五年十月
勅令第二百三十四號
(明治三十五年十月二十九日施行)

朕陸軍電信教導大隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍電信教導大隊條例

第一條 陸軍電信教導大隊ハ學生ニ電信通信術ノ教育訓練ヲ爲シ且軍中通信ニ關シ必要ナル事項ヲ調査研究スル所トス

第二條 學生ハ騎兵、要塞砲兵及工兵士官並要塞砲兵及工兵下士兵卒ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 陸軍電信教導大隊ニ左ノ職員ヲ置ク

隊長

副官

大隊附將校

中隊長

軍醫

副監督

准士官下士

前項ノ外教官トシテ技師技手ヲ置クコトヲ得

第四條 大隊長ハ工兵監ニ隸シ隊務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第五條 副官ハ大隊長ノ命ヲ受ケ隊中一般ノ庶務ヲ掌ル

第六條 大隊附將校以下ハ大隊長ノ命ヲ受ケ分擔ノ業務ニ服ス

第七條 大隊長以下ノ服務ニ付テハ軍隊内務ノ規定ヲ準用ス

第八條 學生ノ修學期ハ士官ハ一箇年下士兵卒ハ一箇年半トス但シ場合ニ依リ陸軍大臣教育總監協議ノ上之ヲ伸縮スルコトヲ得

第九條 學生ノ入隊期ハ毎年概ネ四月トス

學生ノ人員及入隊期日ハ時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十條 前條ノ告達アリタルトキハ師團長ハ當該隊長ヲシテ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入隊期二十日前ニ其ノ人名ヲ電信教導大隊長ニ送付セシムヘシ

第十一條 學生下士ハ現役年限二箇年以上アル者、兵卒ハ前年十二月入營ノ者ヨリ選拔スヘシ

第十二條 學生士官ハ隊外ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、器具及書籍ヲ之ニ貸與若ハ支給スルコトヲ得

第十三條 學生下士兵卒ハ之ヲ中隊ニ編入シ隊内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、器具、書籍及消耗品ヲ之ニ貸與若ハ支給ス

學生下士兵卒ノ武器、被服、裝具ハ所屬隊ヨリ之ヲ擔行セシム

第十四條 學生ノ願届其ノ他ノ諸件ハ總テ大隊長ノ管理ニ屬ス

第十五條 學生ハ情願ヲ以テ歸隊スルコトヲ許サス

學生中疾病其ノ他ノ事故ニ依リ學術修得ノ目途ナキ者アルトキハ隊長其ノ事由ヲ具シ工兵監ノ認可ヲ受ケ之ヲ歸隊セシムヘシ

第十六條 隊長ハ修學期末ニ於テ部下將校ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ工兵監ノ認可ヲ受ケ士官ニ在リテハ修得證明書ヲ、下士兵卒ニ在リテハ考科列序表ヲ製シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ下士兵卒ニハ更ニ學術修業證書ヲ付與シ學生ヲ歸隊セシム

第十七條 大隊附屬將校ハ學生教育上便宜ノ時期ニ於テ之ヲ郵便電信學校ニ派遣シ學術ヲ修習セシムルコトアルヘシ

附則

本條例施行期日ハ陸軍大臣之ヲ定ム

明治三十五年ニ限リ學生ノ入隊期ヲ十二月一日トシ其ノ修學期ヲ概ネ十箇月トス

第三十節 學校

陸軍大學校條例

明治三十六年三月
勅令第百七十一號

朕陸軍大學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍大學校條例
第一條 陸軍大學校ハ才幹アル少壯士官ヲ選拔シテ高等用兵ニ關スル學術ヲ修メシメ併テ軍事研究ニ
須要ナル諸科ノ學識ヲ増進セシムル所トス

第二條 學生教育ノ實施ハ參謀總長ノ定ムル教育綱領ニ據ル

第三條 本校ニ左ノ職員ノ置ク

校長

幹事

副官

軍醫

獸醫

副監警

兵學教官

馬術教官

教官

下士判任文官

第四條 校長幹事及專任ノ兵學教官ハ參謀官トス

第五條 校長ハ參謀總長ニ隸シテ校務ヲ總理シ幹事及諸教官ヲ統督シテ學生教育ノ責ニ任ス

第六條 幹事ハ校長ヲ補佐シ教育ノ實施及其ノ齊一ヲ規畫シ副官軍醫階級副監督ヲ督シ校務ヲ整理シ且學生ヲ監督ス

第七條 副官軍醫階級副監督ハ校長ノ命ニ從ヒ各事務ヲ擔任ス

第八條 兵學教官馬術教官及教官ハ校長ノ命ニ從ヒ學術ノ教授ニ任ス

馬術教官ハ校廐一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第九條 陸軍大學校學生候補者ハ各兵科（砲兵科 騎兵科 歩兵科 工兵科 衛生科 獸醫科）ノ中少尉ニシテ二年以上（入校當年七月一日ヨリ）隊務ニ服シ（月山兵校騎兵實施學校）身體強健勤務精勵學才ニ富ミ且操行高尚ニシテ將來大ニ發達ノ見込アルモノナルコトヲ要ス

第十條 聯隊長（獨立隊ニ在リテハ其ノ隊長官衛學校ニ在リテハ其ノ所屬長以下同シ）ハ前條ノ資格アルモノヲ選拔シ學生候補名簿ヲ製シ順序ヲ經テ所管長官ニ進達シ所管長官ハ之ニ意見ヲ附シ毎年一月盡日迄ニ參謀總長ニ進達ス

聯隊長ハ學生候補者選拔ニ關シテハ特ニ擔保ノ責ニ任ス

第十一條 學生候補者試驗課目並試驗開始ノ時日ハ參謀總長ノ移牒ニ由リ毎年十二月陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 參謀總長ハ試驗委員ヲ設ケ校長ヲ委員長ト爲シ試驗ヲ行ハシム

試驗ハ筆記トシ分テ初審試驗及再審試驗トス

初審試驗ハ學生候補者ノ學力ヲ檢定スルモノニシテ再審試驗ハ初審試驗ニ合格シタル者ニ就キ學力ノ活用ヲ檢定スルモノトス

第十三條 學生候補者ニシテ初審試驗開始前大尉ニ進級シタル者ハ候補者タル資格ヲ失フモノトス

第十四條 試驗ハ師團管内ニ在ル候補者ニ付テハ師團長混成旅團守備管區内ニ在ル候補者ニ付テハ混成

旅團長在外守備隊ニ於ケル候補者ニ付テハ當該守備隊長ノ指定スル場所ニ於テ各地同時ニ之ヲ行フモノトス但シ教育總監所管ノ候補者ニ付テハ教育總監近衛師團ニ於ケル候補者ニ付テハ近衛師團長ノ指定スル場所ニ於テ之ヲ行フモノトス

第十五條 參謀總長ハ試驗委員長ヲシテ初審試驗ニ係ル試驗問題及受験者名簿ヲ毎年二月中ニ教育總監及關係團隊長ニ送付セシム

教育總監及團隊長ハ前條指定ノ場所ニ受験者ヲ集メ參謀長又ハ參謀（參謀長トシテ）ノ監視下ニ於テ試驗ヲ行フ

教育總監及團隊長ハ前項試驗ノ解答書類ヲ細メ速ニ試驗委員長ニ送付スヘシ

試驗委員ハ前項ノ書類ニ由リ試驗ノ成績ヲ調査シ試驗委員長ハ順次名簿ヲ製シ之ヲ參謀總長ニ進達スヘシ

第十六條 參謀總長ハ前條ノ順次名簿ニ由リ合格者ヲ裁定シ前條ニ準シ再審試驗ヲ行ハシム但シ試驗問題及受験者名簿ハ毎年六月中ニ之ヲ送付スルモノトス

第十七條 參謀總長ハ試驗書類及學生候補名簿ヲ參照シ入學者ヲ裁定シ之ヲ陸軍大臣ニ移シ陸軍大臣ハ之ニ入學ヲ命ジ十一月盡日迄ニ陸軍大學校ニ届告セシム

第十八條 入學中學生ノ名簿ハ原所管ヲ離ルルコトナント雖願屆其ノ他業務上ニ關シテハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十九條 學生ノ修學期限ハ三箇年トシ其ノ各學年ノ學期ハ十二月ニ始マリ翌年十一月ニ終ル

第二十條 校長ハ學生入學ノ後ニ其ノ資格不適合ト認ムルコトアルトキハ參謀總長ニ具狀ス參謀總長ハ之ヲ査覈シ陸軍大臣ニ移シ退學ヲ命ジ原所管ニ復歸セシム

疾病ノ爲ニ缺課多キモ尙成業ノ見込アルモノニ在リテハ校長ノ上申ニ由リ參謀總長ハ之ニ滯學ヲ命

スルコトアルヘシ

第二十一條 毎年八月ヨリ十月ニ亘リ學生ヲ各兵種ノ部隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム隊附勤務ハ通常秋季演習ヲ以テ終リト爲ス但シ陸軍大學校ノ授業上必要ト認ムルトキハ校長ハ期ニ先チ學生ヲ召還スルコトヲ得

學生隊附勤務中ハ當該隊長ノ指揮命令ニ從フコト其ノ部下將校ニ異ルコトナシ又當該隊長ハ學生ニ對シ懲罰ヲ科スルノ權ヲ有ス

第二十二條 學生隊附勤務ヲ終レハ當該隊長ハ其ノ成績ヲ校長ニ申報ス

第二十三條 教育上適當ノ時機ニ於テ要塞砲兵射擊砲臺軍艦其ノ他製造所等ヲ實視セシム

第二十四條 校長ハ各學期ノ終リニ於テ幹事及兵學教官ヲ會シ學生ノ修學結果及伎倆ヲ審査シ第一第二學年學生ノ爲ニハ其ノ修學結果報告ヲ第二學年學生ノ爲ニハ伎倆證明書並成績順次名簿ヲ製シ參謀總長ニ呈ス

第二十五條 學生ノ卒業者ニハ卒業證書及之ヲ表彰スルキ徽章ヲ附與シ原所管ニ復歸セシム但シ成績不良ノモノニハ單ニ修學證書ノミヲ附與ス

第二十六條 修學ニ所要ノ圖書、器具及消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトヲ得

第二十七條 武官教官ハ校務ニ差支キ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシメ若ハ機動演習ニ參與セシムルコトアルヘシ

第二十八條 校長ハ毎年學生ニ三週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

●陸軍砲工學校條例

明治三十一年十月
勅令第三百二十五號

改正

明治三十三年五月
勅令第二百十三號
明治三十四年二月
勅令第三百號
明治三十五年七月
勅令第四百七十四號

朕陸軍砲工學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲工學校條例

第一條 陸軍砲工學校ハ砲工兵科ノ少尉ヲ以テ學生ト爲シ砲工兵各科ノ勤務ニ必要ナル學術ヲ教授スル所トス但少尉ニシテ入學シ得サル者ハ中尉又ハ大尉ニ進級ノ後ニ在テモ學生ト爲スコトヲ得

第二條 學生教育ノ綱領ハ教育總監之ヲ定ム

第三條 學生教育ノ實施ハ教則ニ依ル該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ク之ヲ定ム

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

教官

軍醫

獸醫

副監督

下士、判任文官

第五條 校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理シ學生教育ノ責ニ任ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 砲工兵科教官ハ軍事學各科ノ授業ヲ分擔シ高級故參ノ教官ヲ以テ各科ノ科長トス

第八條 馬術教官ハ學生ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校庭一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第九條 文官教官ハ數學物理學化學圖學及外國語學ノ授業ヲ分擔ス

第十條 學生ノ修學期ハ概テ一箇年トシ之ヲ普通科ト稱ス

第十一條 前條修學ヲ終リタル學生中ヨリ各兵科毎ニ三分ノ一以内ヲ選拔シ更ニ一箇年在學セシメ尙
須要ナル學術ヲ修メシム之ヲ高等科ト稱ス

第十三條 學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十三條 (刪除)

第十四條 學生ハ校外ニ居住セシメ修學ニ所要ノ馬匹、馬具、書籍、器具消耗品ハ貸與又ハ支給スル
コトヲ得

第十五條 學生中ノ願屆其他業務ニ關スル條件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十六條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第十七條 學生中疾病及其他ノ事故ニ依リ修學ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請
フ退校セシム

第十八條 普通科學生中左ノ事項ニ該ル者ハ校長其事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ滯學ヲ命ズ

一 疾病及其他ノ事故ニ依リ修學期內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者

二 卒業試驗ヲ受ケ得サル者

三 卒業試驗ニ落第セシ者

第十九條 高等科學生ニシテ前條第一第二項ニ該ル者アルトキハ校長ハ教育總監ノ認可ヲ請ケ滯學ヲ
命ズルコトヲ得

第二十條 校長ハ修學期末ニ於テ學生ノ卒業試驗ヲ施行シ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ修學ノ成績ヲ調査
シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第二十一條 高等科卒業者中若シ王名ヲ選テ國外學生ト爲シ更ニ必要ナル科學ヲ研究セシメ又ハ外國駐

在員トシテ派遣スルコトヲ得其在學又ハ駐在期限等ハ教育總監陸軍大臣ト商議シテ之ヲ定ム

第二十二條 卒業證書ヲ付與シタル者ノ中更ニ高等科若クハ員外學生トシテ在學スル者及野戰要塞各
砲兵射擊學校乙種學生トシテ入校ヲ命セラレタル者ノ外ハ校長直ニ之ヲ歸隊セシム

第二十三條 普通科學生ニシテ退校ヲ命セラレタル者ハ隊長ノ上申ニ依リ教育上便宜ノ時期ニ於テ再
ヒ入學ヲ命スルモノトス

第二十四條 滯學若クハ再ヒ入學ヲ命セラレタル學生修學ヲ終レハ第二十條ニ準シ卒業證書ヲ附與ス

第二十五條 普通科學生ニシテ前條卒業試驗ニ落第セシトキハ歸隊自習ノ上隊長ノ上申ニ依リ更ニ試
驗ヲ受ケシメ及第者ニハ卒業證書ヲ附與シ尙落第シタル者ハ特別ノ詮議ニ附ス

第二十六條 毎年學生ニ三週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 軍事學教官ハ軍事學各科ノ授業ヲ分擔シ佐官教官ヲ以テ各科ノ科長トス

第八條 馬術教官ハ生徒ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校庭一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第九條 文官教官ハ外國語學ノ授業ヲ分擔ス

第十條 生徒隊長ハ生徒隊ヲ統ヘ生徒ノ訓育ヲ監督シ各中隊長ヲシテ擔任ノ訓育ニ任セシメ校長ニ對シ齊一進歩ノ責ニ任ス

第十一條 中隊長ハ生徒隊附士官ヲ指揮シ中隊生徒ノ訓育ヲ擔任シ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任ス

第十二條 生徒隊附士官ハ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ日常生徒ノ躬行ヲ監視シ分擔ノ訓育ニ就テハ其責ニ任ス

第十三條 生徒ノ修學期ハ毎年十二月一日ヨリ翌年十一月下旬ニ至ル十二箇月トス

第十四條 生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

第十五條 生徒入校中ハ總長校長ノ管理ニ屬ス

第十六條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サズ

第十七條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

- 一 學術ノ豫習全カラズシテ實際修學ノ能力ニ乏シク卒業ノ目途ナキ者
- 二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者
- 三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者
- 四 傷病疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者
- 五 卒業試験ニ落第セシ者

第十八條 前條第一第四及第五項ニ該當シ退校セシメシ士官候補生ニシテ尙留ミアル者ハ次ノ學期ニ於テ再ヒ入校セシムルコトヲ得

第十九條 生徒中疾病及其他ノ事故ニ依リ修學期內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者又ハ卒業試験ヲ受ケ得サル者ハ猶滯學ヲ命スルコトヲ得

第二十條 本條例第十七條及第十九條ニ該ル者アルトキハ校長其事由ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總監之ヲ裁定處分ス

第二十一條 生徒修學期末ニ至レハ校長ハ卒業試験規格ヲ撰シ教育總監ニ上申ス教育總監ハ之ヲ裁定シ校長ヲシテ卒業試験ヲ行ハシム

第二十二條 卒業試験ヲ終レハ校長ハ各教官生徒隊長及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第二十三條 卒業證書ヲ附與シタル者ニハ校長直ニ歸隊ヲ命ス

第二十四條 滯學ヲ命セラレタル生徒修學ヲ終レハ前諸條ニ準シテ取扱フモノトス

第二十五條 生徒ニハ三週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十六條 教官、中隊長及生徒隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアル

●陸軍戸山學校條例

明治三十六年六月
勅令第百七號

朕陸軍戸山學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍戸山學校條例

第一條 陸軍戸山學校ハ學生ニ主トシテ步兵ノ戰術射擊、體操及劍術並鼓譜喇叭譜ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ常ニ諸科學術ノ調査研究ヲ爲シ且携帶火兵ノ研究試驗ヲ行ヒ又軍樂生徒ニ樂手補タルニ必要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條 學生ヲ分テ左ノ三種トス

戰術科學生 步兵大中尉ヲ以テ之ニ充テ戰術及射擊ノ研究ヲ爲サシム但シ時宜ニ依リ要塞砲兵及工兵士官ヲ以テ學生ト爲スコトヲ得

體操科學生 歩、騎、砲、工、輜重兵中少尉及下士ヲ以テ之ニ充テ體操劍術ノ訓練ヲ爲サシム但シ士官學生ニ在リテハ尙之ニ小銃射擊ノ研究ヲ爲サシム

譜調學生 歩兵隊ノ鼓手長及騎、砲、工、輜重兵隊ノ喇叭長ヲ以テ之ニ充テ鼓譜喇叭譜ノ訓練ヲ爲サシム

第三條 戰術及射擊研究ノ爲歩、工兵佐官ヲ召集スルコトヲ得但シ修學期日ハ其ノ時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第四條 學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲本校ニ教導大隊ヲ置キ步兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第五條 譜調學生ノ訓練樂手補ノ養成及軍樂ノ研究ヲ爲ス爲本校ニ軍樂生徒隊ヲ置キ其ノ生徒ハ軍樂部ニ出身志願ノ者ヲ選抜シテ之ニ充ツ

第六條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

教官

教導大隊長

教導大隊副官

教導大隊中隊長

教導大隊附

軍樂生徒隊長

軍醫

副監督

准士官、下士、判任文官

第七條 校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第八條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第九條 教官ハ各科學術ノ授業ヲ分擔シ且其ノ學術ノ調査研究携帶火兵ノ研究及試験ニ任シ各科中高

級故參ノ教官ヲ以テ科長トス

第十條 教導大隊及軍樂生徒隊ニ於ケル職員ノ服務ハ軍隊内務ノ定期ヲ準用ス

第十一條 學生及軍樂生徒ノ修學期ハ左ノ如シ

戰術科學生 概テ十箇月トシ毎年一回入校セシム

體操科學生 概テ七箇月トシ毎年一回入校セシム

體操科學生 概テ七箇月トシ毎年一回入校セシム

軍樂生徒 概テ十二箇月トス

第十二條 學生ノ人員及入校期日ハ其ノ時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十三條 學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ修學ニ適當ノ者ヲ選抜シ入校期二十日前ニ其ノ

人名ヲ戶山學校長ニ通報セシムハシ

第十四條 學生士官ハ校外ニ同下士及軍樂生徒ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、彈藥、書籍、器

具、消耗品ハ貨與又ハ支給スルコトヲ得

下士學生ハ所屬隊ヨリ其ノ武器、被服ヲ携行セシム

第十五條 學生及軍樂生徒ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十六條 學生及軍樂生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

學生中疾病其ノ他ノ事故ニ依リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其ノ事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ受ケ

退校セシム

軍樂生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ校長之ヲ退校セシム

一 學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

四 傷疾疾病ニ罹リ卒業ノ目途ナキ者

第十七條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官及軍樂生徒隊長ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ教

育總監ノ認可ヲ受ケ士官ニ在リテハ修得證明書ヲ作り署名捺印シ下士ニ在リテハ考科列序表ヲ製シ

師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ又體操科下士學生ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ附與シ學生ヲ歸

隊セシム
 軍樂生徒ニ在リテハ修學期末ニ於テ卒業試験ヲ施行シ考科列序ヲ定メ之ヲ教育總監ニ報告シ及第者ニハ卒業證書ヲ附與ス
 第十八條 軍樂生徒中疾病事故ノ爲卒業試験ヲ受ケサル者又ハ卒業試験ニ落第シタル者ハ尙滯學セシメ更ニ前條ニ準シ卒業試験ヲ施行スルコトヲ得
 第十九條 教導大隊ヘ分遣ノ下士ハ現役尙一箇年以上ノ期アル者兵卒ハ前年十二月入營ノ者ヨリ選拔スヘシ
 第二十條 教導大隊ヘ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其ノ武器、被服ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ヲ附セシム
 第二十一條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ
 第二十二條 演習上必要アルトキハ砲工學校ノ校馬ヲ使用スルコトヲ得

●陸軍經理學校條例 明治三十五年一月 勅令第二十四號

改正 明治三十五年七月 勅令第七十九號

朕陸軍經理學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍經理學校條例

第一條 陸軍經理學校ハ陸軍經理部士官ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス
 第二條 學生教育ノ實施ハ陸軍大臣ノ定ムル教育綱領ニ據ル
 第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク
 校長
 副官
 教官
 下士並判任文官
 第四條 校長ハ陸軍大臣ニ隸シ校務ヲ總理シ學生教育ノ責ニ任ス
 第五條 副官ハ校長ノ命ヲ受ケ庶務ニ服ス
 第六條 教官ハ校長ノ命ヲ受ケ學術ノ教授ニ任ス
 第七條 學生ハ身體強健年齡滿三十年 七月一 以下ニシテ左ノ資格ヲ備ル者ヨリ採用ス
 一、各兵科現役 休職停職中ヲ除ク 中、少尉ノ志願者ニシテ試験ニ合格シタル者但シ陸軍大學校卒業者ハ第九條ノ本試験ヲ行ハス
 二、監督候補生ニシテ見習監督ヲ命セラレタル者
 第八條 學生卒業者中優秀ノ者ヲ選拔シテ員外學生ト爲シ帝國大學ノ規程ニ依リ帝國大學ニ入學セシ

必要ナル科學ヲ研究セシムルコトヲ得
第九條 陸軍大臣ハ學生志願者ノ學力ヲ檢定スル爲メ試験委員ヲ設ケ陸軍省經理局長ヲ委員長ト爲シ左ノ試験ヲ行ハシム

一、豫備試験 學生志願者ハ陸軍大臣ノ告達ニ從ヒ自ラ論文ヲ作り秘封シテ所管長官ニ出シ所管長官ハ之ニ本人ノ考科表寫ヲ添ヘ試験委員長ニ送付ス試験委員長ハ之ヲ審査シ本試験ヲ受ケシムヘキ者ヲ定メ所管長官ヲ經テ之ヲ本人ニ告知ス

二、本試験 本試験ハ分テ筆記及口述トシ試験委員之ヲ行フ

第十條 試験委員長ハ本試験了ルノ後學生ニ採用スヘキ者ヲ選定シテ陸軍大臣ニ上申シ陸軍大臣之ヲ裁定シ學生ヲ命ス

第十一條 學生ノ人員、入校期日其ノ他採用ニ關スル規定ハ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 學生ノ修學期ハ第七條其ノ一ニ當ル者ニ在リテハ概テ二箇年トシ其ノ二ニ在リテハ概テ六箇月トス

第十三條 學生ノ名籍ハ原所管ヲ離ルルコトナシト雖願居其ノ他業務上ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理トス

第十四條 校長ハ各學期ノ終ニ於テ教官ヲ會シ學生ノ修學結果及技術ヲ審査シ之ヲ陸軍大臣ニ報告シ尙卒業學生ノ爲メハ技術證明書並列次名簿ヲ進達シ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ卒業證書ヲ附與ス

第十五條 校長ハ學生入學ノ後退校者ハ滯學セシムヘキ必要アリト認メタル者アルトキハ之ヲ陸軍大臣ニ具申シ陸軍大臣之ヲ裁定シテ退校者ハ滯學ヲ命ス

第十六條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サズ

第十七條 修學ニ所要ノ圖書器具ハ貸與スルコトヲ得

第十八條 學生ノ乘馬演習ニハ陸軍砲工學校繋畜ノ馬匹ヲ用ツ
第十九條 校長ハ毎年學生ニ三週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

附則

第二十條 當分ノ内補充上ノ必要ニ依リ本校ニ監督講習生ヲ置ク其ノ學期ハ六箇月以内トス

本條例第十一條第十三條乃至第十八條ハ監督講習生ニ之ヲ準用ス

第二十一條 監督講習生ハ左ノ資格ヲ備ル者ヨリ採用ス
一、各兵科現役士官休職、停職、除クノ志願者ニシテ試験ニ合格シタル者但シ陸軍大學校卒業ノ者ニハ本試験ヲ行ハス

二、現役軍吏休職、停職、除クニシテ選拔セラレ試験ニ合格シタル者
前二號ノ試験ニ關シテハ本條例第九條第十條ヲ準用ス

第二十二條 本令ハ明治三十五年二月一日ヨリ施行ス但シ講習生採用ニ係ル事項ハ本令發布ノ日ヨリ施行ス

現在ノ軍吏學生ハ本令發布ノ際各自原所管ニ復歸セシメ若ハ志願ニ依リ上等計手ニ任用スルコトヲ得

●陸軍軍醫學校條例

明治二十九年五月
勅令第百九十四號

改正

●明治三十年二月
勅令第百二十一號

●明治三十二年十月
勅令第百四十九號

●明治三十五年七月
勅令第百八十號

朕陸軍軍醫學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍醫學校條例

第一條 陸軍軍醫學校ハ學生ノ練習、生徒ノ養成衛生部ニ關スル教科用書ノ編修若クハ撰譯及兵衣、兵食、兵器等ノ軍醫衛生ニ關スル試驗ヲ行フ所トス

第二條 學生ハ各部隊附ノ衛生部士官ヲ分遣シテ之ニ充テ其特科ヲ練習セシム

第三條 生徒ハ醫術開業免狀又ハ藥劑師免狀ヲ所持シ衛生部現役士官ニ出身志願ノ者ヲ選抜シテ採用ス

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

軍醫監

副官

教官

副監

第五條 校長ハ陸軍省醫務局長ニ隸シ校務ヲ掌理シ第一條ノ事項ニ關シテ其責ニ任ス

第六條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ陸軍屬ヲ置ク

第七條 教官ハ各専門學科ノ教授ニ任シ兼テ第一條ノ事項ヲ分擔ス

第八條 學生ノ練習期ハ四箇月以内トシ生徒ノ養成期ハ二箇年以内トス

第九條 學生及生徒ノ人員、入校時日並ニ生徒採用ニ關スル規定ハ陸軍大臣之ヲ定メテ告達ス

第十條 學生分遣ノ告達アルハ軍醫部長ハ入校期十日前ニ其人名ヲ軍醫學校長ヘ通報スルモノトス

第十一條 學生及生徒ハ校外ニ居住セシメ其科業ニ關シ所要ノ書籍、器具、消耗品ハ貸與又ハ支給ス

第十二條 學生ノ名籍ハ原所管ヲ離ル、コトナシト雖分遣中ノ願用其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十三條 學生ノ練習ヲ終ルトキハ校長ハ原所管ニ復歸ヲ命シ練習中ノ成績ヲ醫務局長ニ報告シ且所管ノ軍醫部長ニ之ヲ通知ス

第十四條 生徒ハ教成ヲ終ルキハ校長ハ卒業試験ヲ行ヒ其成績ニ據リ列序ヲ定メ考科表ヲ製シテ醫務局長ニ進達シ其認可ヲ請ケ卒業證書ヲ付與ス

第十五條 學生及生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サズ

第十六條 學生中疾病又ハ其他ノ事故ニ依リ練習ヲ終ルニ目途大キ者ハ原所管ニ復歸セシム

第十七條 生徒中左ノ事項ニ一ニ該タル者ハ退校セシム

其一 學力乏クシテ卒業ノ目途大キ者

其二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ニ犯ス者

其三 品行不正ニシテ改後ノ目途大キ者

其四 疾病ニ依リ卒業ノ目途大キ者

其五 卒業試験ニ落第セシ者

第十八條 第十六條第十七條ニ該タル者アルトキハ校長其理由ヲ悉シ醫務局長ニ上申シ其認可ヲ請ケ復歸若シハ退校ヲ命ス

第十九條 現役豫備役後備役ニ在ル者ニシテ生徒トナリタル者前條ノ處分ヲ受ケタルハ原所管ニ復歸セシメ前役ヲ通算ス

第二十條 現役豫備役後備役ニ編入ス

陸軍中央幼年學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
勅令第百八號
明治三十六年六月

陸軍中央幼年學校條例

陸軍中央幼年學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍中央幼年學校條例

第一條 陸軍中央幼年學校ハ東京ニ置キ生徒ヲ本科及豫科ニ區分シ本科ハ豫科卒業者及陸軍地方幼年學校卒業者ヲ以テ生徒ト爲シ士官候補生タルニ必要ナル普通學科及軍人ノ豫備教育ヲ爲シ豫科ハ將校ニ出身志願者ヲ選拔シテ生徒ト爲シ陸軍地方幼年學校ト同一ノ課程ヲ修メシメ本科生徒ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其ノ綱領ハ教育總監之ヲ定ム

第三條 生徒教育ノ實施ハ效則ニ依ル該效則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長按テ具シ教育總監ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長
- 副官
- 教官
- 生徒隊中隊長
- 生徒隊中隊附
- 生徒監主事
- 生徒監
- 軍醫

獸醫

副監督

准士官、下士、判任文官

將校下士ニシテ豫科附ノ者ハ豫備後備役ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得

第五條 校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 馬術教官ハ生徒ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校厩一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第八條 文官教官ハ各學科ノ授業ヲ分擔ス

教官中適任者一名ヲ選テ教頭ト爲シ教授部全般ノ授業ヲ監視シ校長ニ對シ齊一進歩ノ責ニ任セシム

第九條 中隊長ハ中隊附士官ヲ指揮シ中隊生徒ノ訓育ヲ擔任シ軍人精神ヲ涵養シ生徒ヲシテ軍紀ニ慣

熟セシメ其ノ成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任ス

第十條 生徒監主事ハ生徒監ヲ指揮シ豫科生徒ノ訓育ニ關シ前條ニ準シ擔保ノ責ニ任ス

第十一條 中隊附士官及生徒監ハ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ日常生徒ノ躬行ヲ監視シ自ラ模範ト爲リ

テ之ヲ指導シ分擔ノ訓育ニ就テハ其ノ責ニ任ス

第十二條 本科生徒ノ修學期ハ九月一日ヨリ翌年五月下旬ニ至ル二十一月トシ之ヲ二學年ニ分チ

各學年ハ毎年九月一日ヨリ開始ス

第十三條 豫科生徒ノ修學期ハ九月一日ヨリ第四年ノ八月下旬ニ至ル三十六箇月トシ之ヲ三學年ニ分

チ各學年ハ毎年九月一日ヨリ開始ス

第十四條 生徒ノ修學ニ所要ノ器具及圖書等ハ貸與又ハ支給スルコトヲ得

第十五條 陸軍地方幼年學校條例第十二條乃至第十八條ノ規定ハ本校生徒ニ之ヲ準用ス

第十六條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許ス但シ豫科生徒ニ在リテハ陸軍地方幼年學校條例第十九條ノ規定ヲ準用ス

第十七條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

一 學術ノ修得全カラスシテ卒業ノ前途ナキ者

二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

三 品行不正ニシテ改悛ノ前途ナキ者

四 傷疾疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者

五 卒業試験ニ落第セシ者

第十八條 生徒中各學年ニ於テ所定ノ學術ヲ修メ得サル者又ハ疾病等ノ爲卒業試験ヲ受ケ得サル者或

ハ卒業試験ニ落第セシ者ト雖尙望ミアル者ハ一學年延期修學セシメ又本科生徒ニ限リ士官候補生教

育ニ支障ナキ日數間滯學セシムルコトヲ得

前項ノ延期修學ハ本科生徒ニ在リテハ全學年ヲ通シテ一回限リトス

第十九條 本科生徒中卒業試験ニ及第スルモ傷疾疾病等ニテ士官候補生ト爲ヌヲ得サル者ニハ單ニ卒

業證書ヲ附與シテ退校セシム

第二十條 前四條ニ該ル者アルトキハ校長其ノ事由ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總監之ヲ裁定處分ス

第二十一條 生徒修學期末ニ至レハ校長ハ卒業試験規格ヲ撰シ教育總監ニ上申ス教育總監ハ之ヲ裁定

シ校長ヲシテ卒業試験ヲ行ハシム

第二十二條 卒業試験ヲ終レハ校長ハ各教官中隊長及生徒監主事ヲ集メ會議ヲ開キ成績ヲ調査シ考科

列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ受ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第二十三條 教育總監ハ本科卒業者中士官候補生ト爲ヌヘキ者ヲ定メ之ニ士官候補生ヲ命シ各隊ニ配

賦ス

士官候補生ヲ命シタル者ニハ入隊前ニ於テ一週間以内ノ休暇ヲ與ヘ豫科卒業者ニハ本科ノ學期開始ニ至ル迄休暇ヲ與ヘ歸省又ハ他行ヲ許スコトヲ得

第二十四條 滯學ヲ命セラレタル生徒補修終レハ前諸條ニ準シテ取扱フモノトス

第二十五條 毎年生徒ニ五週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十六條 教官、中隊長及中隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルハ

●陸軍地方幼年學校條例

明治三十一年十月 勅令第二百二十九號

改正

●明治三十二年五月 勅令第二百二十九號

●明治三十三年一月 勅令第八號

●明治三十三年五月 勅令第二百十六號

●明治三十六年六月 勅令第九號

朕陸軍地方幼年學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍地方幼年學校條例

第一條 陸軍地方幼年學校ハ陸軍將校ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ生徒ト爲シ軍事上ノ必要ヲ顧慮シテ普通學科ヲ教授シ軍人精神ヲ涵養シ陸軍中央幼年學校生徒ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 陸軍地方幼年學校ハ左ノ五箇所ニ置ク

仙臺、名古屋、大阪、廣島、熊本

第三條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其綱領ハ教育總監之ヲ定ム

第四條 生徒教育ノ實施ハ效則ニ依リ該教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ校長案ヲ具シ教育總監ニ上申シ

教育總監之ヲ規定ス

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副校長

教官

副教官

軍醫

下士、列任文官

生徒監

副監督

校長以下將校同相當官及下士ハ豫備後備役ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得

第六條 校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第七條 副官ハ校中一般ノ職務ヲ掌ル

第八條 教官ハ各學科ノ授業ヲ分擔ス

第九條 生徒監ハ生徒ノ訓育ヲ擔任シ軍人精神ヲ涵養シ日常其躬行ヲ監視シ自ラ模範ト爲リテ之ヲ指導シ其成績ニ就テハ專ラ擔保ノ責ニ任ス

第十條 生徒ノ修學期ハ九月一日ヨリ第四年ノ八月下旬ニ至ル三十六箇月トシ之ヲ三學年ニ分チ各學年ハ毎年九月一日ヨリ開始ス

第十一條 生徒ノ修學ニ所要ノ器具及圖書等ハ貸與又ハ支給スルコトヲ得

第十二條 生徒ハ總テ校内ニ寄宿セシム

第十三條 生徒ハ入學中被服糧食其他ノ費用トシテ若干ノ納金ヲ爲スモノトス之ヲ自費生ト稱ス

第十四條 生徒中左ノ各項ニ該ル者ハ列記ノ順序ニ從ヒ資産ヲ願慮シ若干名ヲ限リテ特ニ納金ノ全額ヲ免除スルコトヲ得之ヲ特待生ト稱ス

一 戰死及戰傷ニ依リ死歿シ又ハ戰役中危難ヲ冒シタルニ起因シテ死歿シタル陸海軍將校及同相當官並ニ高等文官ノ孤兒

二 現職中公務ノ爲メニ死歿シタル陸海軍將校及同相當官ノ孤兒

三 增加恩給權ヲ得タル陸海軍將校及同相當官ノ孤兒

四 恩給權ヲ得タル陸海軍將校及同相當官ノ孤兒

五 特ニ國家ニ功勞アル高等官ノ孤兒

第十五條 生徒中左ノ各項ニ該ル者ハ列記ノ順序ニ從ヒ資産ヲ願慮シ若干名ヲ限リテ特ニ納金ノ内額ノ日覆、絨袴衣類、夏衣袴、外套及精米糧ヲ免除スル事ヲ得之ヲ半特待生ト稱ス但前條ノ各項ニ

該ル者ノ内特待生ト爲サ、ル者ハ之ヲ半特待生ト爲スコトヲ得

一 現職ニ在ル陸海軍尉官及同相當官ノ兒子

二 恩給權ヲ得タル陸海軍尉官及同相當官ノ兒子

三 陸海軍少佐及同相當官ニ名譽進級ヲ爲シタル者ノ兒子

第十五條 家督相續者タル養子ハ前二條中ノ孤兒或ハ兒子ニ準ス

第十六條 特待生半特待生ト爲スヘキ人員及其區分ハ教育總督陸軍大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第十七條 本條例中孤兒及兒子ハ總テ同戶籍内ニ現在スルモノニ限ル又一家ヨリ重複シテ特待ヲ受クルヲ得サルモノトス

第十八條 特待生、半特待生及自費生ノ納金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十九條 生徒中止ムヲ得サル事故アリテ退校ヲ願出ル者アルトキハ其事情ニ依リ之ヲ許スコトアルヘシ

第二十條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

一 學術ノ修得全カラヌシテ卒業ノ目途ナキ者

二 屢法則ヲ犯シ又ハ品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

三 傷疾疾病ニ依リ修學ニ堪ヘサル者

四 卒業試驗ニ落第セシ者

第二十一條 生徒中各學年ニ於テ所定ノ學科ヲ修メ得サル者或ハ疾病等ニ依リ卒業試驗ヲ受ケ得サル者又ハ卒業試驗ニ落第セシ者ト雖モ尙留ミアル者ハ一學年延期修學セシムルコトヲ得

第二十二條 前三條ニ該ル者アルトキハ校長其事由ヲ具シ教育總監ニ上申シ教育總監之ヲ裁定處分ス

第二十三條 生徒修學期末ニ至ルハ校長ハ卒業試驗規格ヲ撰シ教育總監ニト申ス教育總監ハ之ヲ裁定

シ校長ヲシテ卒業試験ヲ行ハシム

第二十四條 卒業試験ヲ終レハ校長ハ各教官生徒監ヲ集メ會議ヲ開キ成績ヲ調査シ考科列序ヲ定メ教育總監ノ認可ヲ請ケ及第者ニ卒業證書ヲ附與ス

第二十五條 教育總監ハ地方幼年學校長ヲシテ前條卒業者ニ中央幼年學校へ入學ヲ命セシム

第二十六條 前條ノ生徒ハ中央幼年學校ニ入校ノ期日ニ至ル迄休暇ヲ與ヘ歸省又ハ他行ヲ許スコトヲ得但此間ニ於ケル生徒ノ身分ハ地方幼年學校ニ屬ス

第二十七條 毎年生徒ニ五週間以内ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

●陸軍騎兵實施學校條例

明治三十一年十月
勅令第二百三十號

改正

●明治三十三年八月
勅令第三百四十六號

●明治三十五年七月
勅令第三百七十六號

●明治三十五年十一月
勅令第三百六十六號

朕陸軍乘馬學校條例ヲ廢シ陸軍騎兵實施學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍騎兵實施學校條例

第一條 陸軍騎兵實施學校ハ學生ニ戰術及馬術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ常ニ諸科學術ノ調査研究ヲ爲シ且乘馬具及馬匹器具ノ研究並試驗ヲ行フ所トス

第二條 學生ヲ分テ左ノ二種トス

一 戰術科學生ハ騎兵大中尉ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ少尉ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

二 馬術科學生ハ騎兵中少尉及下士ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ野戰砲兵、要塞砲兵、輜重兵士官及下士ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

第三條 戰術研究ノ爲メ時トシテ教官ヲ召集スルコトヲ得但修學期日ハ其時時教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第四條 學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導中隊ヲ置キ騎兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

教官

教導中隊長

教導中隊附

隊長

副隊長

軍醫

獸醫

副監督

准士官、下士、判任文官

第六條 校長ハ騎兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條 教官ハ戰術及馬術科學術ノ授業ヲ分擔シ且其各科ニ於ケル學術ノ調査研究並乘馬具及馬匹器具ノ研究及試験ニ任シ高級故參ノ教官ヲ以テ各科ノ科長トス

第九條 庶長ハ校庭一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ニ任ス

第十條 調馬手長ハ庶長ニ隸シ馬匹ノ調教ヲ掌ル

第十一條 教導中隊ノ中隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定期ヲ適用ス

第十二條 學生ノ修學期ハ各科トモ概ネ十一箇月トス但シ修學ヲ終リタル馬術科騎兵士官學生中ヨリ若干名ヲ選抜シテ更ニ概テ一箇年在學セシメ尙須要ナル學術ヲ習修セシムルコトヲ得

第十三條 學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十四條 學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ各科ノ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其人名ヲ騎兵實施學校長ニ通報セシムヘシ

第十五條 學生士官ハ校外ニ同下士ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、馬匹、馬具、書籍、器具、油

耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ但下士學生ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシム

第十六條 學生中ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十七條 學生ハ情願ヲ以テ退校ニルヲ許サスト雖モ疾病及其他ノ事故ニ依リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ騎兵監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

第十八條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ騎兵監ノ認可ヲ請ケ士官ニ在テハ修得證明書ヲ作り署名捺印シ下士ニ在テハ考科列序表ヲ製シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ又下士ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ附與シ學生ヲ歸隊セシム

第十九條 教導中隊ハ分遣ノ下士ハ現役尙二箇年以上ノ期アル者兵卒ハ前年十二月入營者ノ中ヨリ選抜スヘシ

第二十條 教導中隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、馬具、被服、裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ヲ附セシム

第二十一條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

附則

第二十二條 當分ノ内必要ニ應シ學生ノ修學期ヲ短縮シ及戰術科學學生ヲ一箇年二回召集スルコトヲ得

第二十三條 陸軍乘馬學校條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

● 陸軍野戰砲兵射擊學校條例

明治三十一年十月
勅令第百三十一號

改正

● 明治三十三年八月
勅令第百四十七號

● 明治三十五年七月
勅令第百七十一號

朕陸軍野戰砲兵射擊學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍野戰砲兵射擊學校條例

第一條 陸軍野戰砲兵射擊學校ハ學生ニ野戰砲兵ノ射擊及戰術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ常ニ射擊及戰術ノ調査研究ヲ爲シ且野戰砲兵材料ノ研究並試驗ヲ行フ所トス

第二條 學生ヲ分テ左ノ二種トス

甲種 各野戰砲兵隊ヨリ分進スル大中尉學生
乙種 砲工學校卒業ノ上入校メル中少尉學生

第三條 前條ノ外時トシテ佐官ヲ召集シ所要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得但修學期日ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告進ス

第四條 學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導大隊ヲ置キ野戰砲兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分進シテ之ヲ編成ス

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

教官

教導大隊長

教導大隊副官

教導大隊中隊長

教導大隊附

軍醫

獸醫

副監督

准士官、下士、列任文官

第六條 校長ハ野戰砲兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條 教官ハ各學術科ノ授業ヲ分擔シ且野戰砲兵ニ關スル學術、材料ノ調査研究及試験ニ任ス

第九條 教導大隊ノ大隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定期ヲ適用ス

第十條 學生ノ修學期左ノ如シ

甲種學生ハ概テ三箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム

乙種學生ハ概テ二箇月トシ甲種學生ノ修學期中ニ併セテ入校セシム

第十一條 學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

但シ砲工學校卒業ノ上直ニ入校スル學生ニ在リテハ教育總監之ヲ命ス

第十二條 學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其人

名ヲ野戰砲兵射擊學校長ニ通報セシムヘシ

第十三條 學生ハ校外ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、彈藥、馬匹、馬具、書籍、器具ハ貸與スルコトヲ

得

第十四條 學生中ノ願屆其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十五條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サスト雖モ疾病及其他ノ事故ニ因リ學術修得ノ目途ナキ者

ハ校長其事由ヲ具シ野戰砲兵監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

第十六條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ野戰砲兵監ノ認可

ヲ請ケ修得證明書ヲ作り署名捺印シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ學生ヲ歸隊セシム

第十七條 教導大隊ハ分遣ノ下士ハ現役尙二箇年以上ノ期アル者兵卒ハ前年十二月入營者ノ中ヨリ撰

拔スヘシ

第十八條 教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徽

章ヲ附セシム

第十九條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

●陸軍要塞砲兵射擊學校條例

明治三十一年十月
勅令第三百三十二號

改正

●明治三十二年十月
勅令第三百九十五號

●明治三十三年八月
勅令第三百四十八號

●明治三十五年七月
勅令第三百七十八號

●明治三十五年十月
勅令第三百三十五號

朕陸軍要塞砲兵射擊學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍要塞砲兵射擊學校條例

第一條 陸軍要塞砲兵射擊學校ハ學生ニ要塞砲兵ノ射擊及戰術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ且要塞電燈使用員ニ電燈使用術ヲ教育シ射擊及戰術ノ調査研究ヲ爲シ要塞砲兵材料ノ研究並試驗ヲ行フ所トス

第二條 學生ヲ分テ左ノ三種トス

甲種 各要塞砲兵隊ヨリ分遣スル大中尉

乙種 砲工學校卒業ノ上入校スル中少尉

丙種 要塞電燈使用員ニ充ツル爲メ各要塞砲兵隊ヨリ分遣スル下士兵卒

第三條 前條ノ外時トシテ佐官ヲ召集シ所要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得但修學期日ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第四條 甲種及乙種學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導大隊ヲ置キ要塞砲兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 副官 教官

教導大隊長 教導大隊副官

教導大隊中隊長 教導大隊附

軍醫 獸醫 副監督
准士官、下士、判任文官

第六條 校長ハ要塞砲兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス

第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條 教官ハ學生學術科ノ授業ヲ分擔シ且要塞砲兵ニ關スル學術、材料ノ調査研究及試驗ニ任ス

第九條 教導大隊ノ大隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定期ヲ適用ス

第十條 學生ノ修學期左ノ如シ

甲種學生ハ概ネ三箇月トシ毎年一回ニ分テ入校セシム

乙種學生ハ概ネ二箇月トシ毎年一回ニ入校セシム

丙種學生ハ概ネ一箇年トシ毎年一回ニ入校セシム但其修學期ハ場合ニ依リ陸軍大臣教育總監協議ノ

上伸縮スルコトヲ得

第十一條 學生ノ人員及入校期日(丙種學生ニ在リテハ概ネ四月)ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍

大臣之ヲ告達ス

但シ砲工學校卒業ノ上直ニ入校スル學生ニ在リテハ教育總監之ヲ命ス

第十二條 學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其人

名ヲ要塞砲兵射擊學校長ニ通報セシムヘシ但丙種學生中下士ハ現役尙二箇年以上ノ期アル者兵卒ハ

前年十二月入營ノ者中ヨリ選拔スヘシ

第十三條 甲種及乙種學生ハ校外ニ丙種學生ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、彈藥、馬匹、馬具、

書籍、器具ハ貸與若ハ支給スルコトヲ得

丙種學生ノ武器、被服、裝具ハ所屬隊ヨリ之ヲ攜行セシム

第十四條 學生中ノ師團其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十五條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サント雖トモ疾病及其他ノ事故ニ依リ學術修得ノ目途ナキ

者ハ校長其事由ヲ具シ要塞砲兵監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

第十六條 校長ハ學生ノ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ要塞砲兵監

ノ認可ヲ請ケ士官ニ在リテハ修得證明書ヲ作り署名捺印シ下士兵卒ニ在リテハ考科列表ヲ製シ師

團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ又下士兵卒ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ付與シ學生ヲ歸隊セシム

第十七條 教導大隊ハ分遣ノ下士ハ現役尙二箇年以上ノ期アル者兵卒ハ前年十月入營者ノ中ヨリ選

拔スヘシ

第十八條 教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ攜行セシメ分遣中ハ特別ノ微

章ヲ附セシム

第十九條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

● 陸軍獸醫學校條例

明治三十二年十月
勅令第四百二十號

改正

● 明治三十五年七月
勅令第四百八十一號

朕陸軍獸醫學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍獸醫學校條例

- 第一條 陸軍獸醫學校ハ學生ニ各專門ノ學術ヲ練習セシメ常ニ獸醫及蹄鐵ニ關スル學術ノ調査研究ヲ爲シ軍馬衛生ニ關スル試驗ヲ行ヒ且蹄鐵工長候補生ニ蹄鐵工長タルニ必要ノ教育ヲ爲ス所トス
- 第二條 學生ハ獸醫部士官及隊附騎兵、砲兵、輜重兵、蹄鐵工長、候補生ハ騎兵、野戰砲兵、輜重兵、隊ヨリ分遣スル蹄鐵工長候補生ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

教官

軍醫

副監督

下士、判任文官

第四條 (削除)

第五條 校長ハ陸軍省軍務局長ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 教官ハ學術ノ教授及其調査研究ヲ分擔シ軍馬ノ衛生ニ關スル試驗ニ從事ス

第八條 學期ハ概テ學生士官ニ在テハ五箇月、同下士ニ在テハ三箇月、候補生ニ在テハ九箇月トス

第九條 學生、候補生ノ人員及入校時日ハ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十條 學生、候補生分遣ノ告達アレハ師團長ハ學生士官ニ在テハ獸醫部長、同下士ニ在テハ當該隊長ヲシテ選定セシメ入校期日十日前途ニ其人名ヲ校長ニ通報セシム

第十一條 學生士官ハ校外ニ同下士及候補生ハ校内ニ居住セシム但營外居住ノ下士ニ在テハ校外トス第十二條 學用品ハ學生士官ニ在テハ自辨トシ同下士及候補生ニハ之ヲ貸與又ハ支給ス但學生士官ト雖モ科業ノ種類ニ由リ之ヲ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

學生下士、候補生ニ在テハ武器被服及裝具ヲ其所屬隊ヨリ携行セシム

第十三條 學生、候補生ノ願届其他業務ニ關スル諸件、總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十四條 學生、候補生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ得ス

第十五條 學生、候補生中左ノ事項ニ該ル者ハ校長其事山ヲ具シ軍務局長ノ認可ヲ請ケ退校歸隊セシム但候補生徒ニ在テハ豫メ所屬隊長ニ通報シ退校ト同時ニ除隊ノ處分ニ附スルコトアリ

其一 學術ノ修得全カラズ卒業ハ前途ナキ者

其二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

其三 品行不正ニシテ改悛ノ前途ナキ者

其四 傷疾疾病ニ依リ卒業ノ前途ナキ者

其五 終末試験ニ落第セシ者

候補生ニ在テ傷疾疾病其他ノ事故ニ依リ終末試験ヲ受ケサルモ望ミアル者ハ若干日ノ後特ニ受験セシムルコトヲ得又終末試験ニ落第スルモ尙ホ望ミアル者ハ若干日間學術ノ補修ヲ爲シ卒業セシムルコトヲ得

第十六條 校長ハ學期末ニ於テ學生ニ在テハ放官會議ヲ開キ其成績ヲ審査シテ修得證明書ヲ附與シ候

補生ニ在テハ終末試験ヲ施行シ及第者ニハ卒業證書ヲ附與ス

學生及候補生修學ヲ終レハ校長ハ原所管ニ復歸ヲ命シ且其成績ヲ軍務局長ニ報告シ所屬長及所管師團獸醫部長ニ通知ス

第十七條 授業上所要ノ馬匹ハ陸軍騎兵實施學校飼養ノモノヲ以テ之ニ充ツ時宜ニ依リ他ノ學校及軍隊飼養ノ馬匹ヲモ之ニ充ツルコトヲ得

將校及同相當官飼養ノ馬匹ハ本人ノ希望ニ依リ前項ノ所要ニ供スルコトヲ得

附則

第十八條 現在ノ陸軍獸醫學校生徒ニ關シテハ本令施行後ト雖モ尙ホ従前ノ規定ニ依ル

●陸軍砲兵工科學校條例

明治三十二年十月
勅令第四百二十一號

改正

●明治三十五年七月
勅令第四百八十二號

朕陸軍砲兵工科學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲兵工科學校條例

第一條 陸軍砲兵工科學校ハ東京砲兵工廠ニ置キ同廠提理ノ管理ニ屬シ火工學生ニ火工術ヲ教授シ砲兵工長候補生ニ銃工銃工木工工長タルニ必要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條 火工學生ハ砲兵隊長期下士中ヨリ分遣シ砲兵工長候補生ハ陸海軍豫備役後備役ニ在ラサルモノ及各兵科初年兵ニシテ召募試験ニ及第シタル者ヨリ採用ス

砲兵工長候補生中兵卒ヨリ採用分遣セシモノヲ砲兵工長候補學生其他ヨリ採用セシモノヲ砲兵工長候補生徒ト稱ス

第三條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

學校附

軍醫

准士官下士並列任文官

第四條 (刪除)

第五條 校長ハ東京砲兵工廠提理ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ヌ

第六條 學校附砲兵大中尉ハ訓育及學術ノ教授ニ任シ日常學生生徒ノ躬行ヲ監視シ分擔ノ教育ニ就テハ擔保ノ責ニ任ヌ

助教ハ圖書等ノ教授ヲ擔任ス

第七條 學期ハ火工學生ニ在テハ概テ一箇ハ砲兵工長候補生ニ在テハ概テ二箇年トス

第八條 火工學生及砲兵工長候補生各工科専門ノ實業ハ東京砲兵工廠ニ於テ之ヲ教授ス學校ノ内務ハ概テ軍隊内務ノ規定ニ依ル

第九條 火工學生及砲兵工長候補生ノ人員ハ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十條 火工學生分選ノ告達アレハ師團長ハ砲兵隊長ヲシテ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期十日前ニ其人名ヲ提理

第十一條 砲兵工長候補學生ヲ命セラレタルモノモ亦前條ニ準シ其人名ヲ提理ニ通報スヘシ

第十二條 火工學生及砲兵工長候補學生ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所用ノ書籍器具機械雜具消耗品並

第十三條 砲兵工長候補生徒ニ關スル一切ノ費用ハ官給トシ且手當金ヲ給ス

第十四條 火工學生及砲兵工長候補學生分選入校中願屆等ニ關スル諸件ハ總テ提理ノ管理ニ屬ス

第十五條 火工學生及砲兵工長候補生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第十六條 學期末ニ於テ終末試験ヲ施行シ及第スル者ニハ卒業證書ヲ附與シ火工學生ニ在テハ原隊ニ復歸ヲ命シ其試験成績ヲ提理ヨリ師團長ヲ經テ當該砲兵隊長ニ移ス

第十七條 火工學生及砲兵工長候補生ニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ル者ハ學生若クハ工長候補生徒ヲ免ス

一 學術ノ修得全クシテ卒業ノ目的ナキ者

二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯シ若クハ品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

三 傷疾疾病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者

四 卒業試験ニ落第シタル者

第十八條 前條各項ノ一ニ該ルモノアルトキハ學校長其事由ヲ悉シ提理ニ具狀シ認可ヲ受ケ之ヲ處分

ス

第十九條 火工學生及砲兵工長候補生中傷疾疾病其他ノ事故ニ依リ終末試験ヲ受ケサルモ望ミアル者

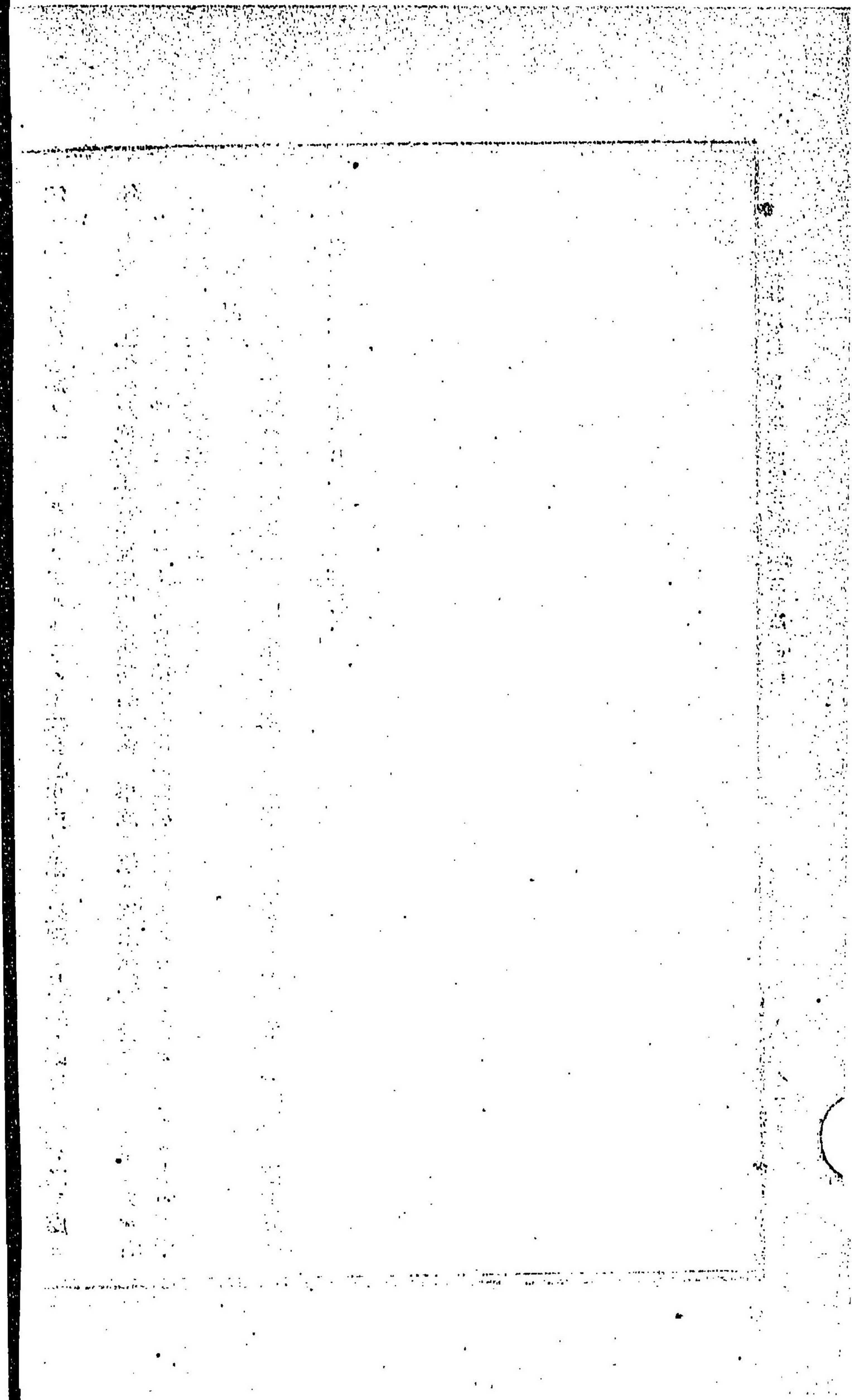
ハ若干日ノ後特ニ受験セシムルコトヲ得又第十七條第四項ニ該ルモノニシテ尙ホ望ミアル者ハ若干

日間學術ノ補修ヲ爲シ卒業セシムルコトヲ得

附則

本令施行前入校ノ生徒ハ總テ砲兵工長候補生徒ト爲シ尙ホ卒業ノ目途ナキ者ニ就テハ舊條例第十五條

ノ規定ニ依ル
本令ハ明治三十二年十二月一日ヨリ施行ス



欠

MISSING

●官術學校附獸醫服務規則

明治三十三年三月
陸軍省令第二十九號

改正

●明治三十年八月
陸軍省令第九十八號

官術學校附獸醫服務規則左ノ通定ム

但明治二十二年陸達第七號ハ廢止ス

陸軍官術學校附獸醫服務規則

第一條 官術學校附獸醫ハ當該官術學校保管馬匹ノ衛生ヲ贊助シ殊ニ其ノ疾病及蹄鐵ノ事ニ就テハ擔保ノ責ニ任ス

第二條 官術學校附獸醫ハ蹄鐵工(下)長ノ教育ヲ掌ル

第三條 官術學校附獸醫ハ其ノ職務上所在地所管ノ師團獸醫部長ノ監督ヲ受ク

第四條 官術學校附獸醫ハ芻秣ノ検査ニ參與ス

第五條 官術學校附獸醫ハ所屬長ノ施行スル馬匹検査並ニ廢役馬ノ決定ニ參與ス

第六條 官術學校附獸醫ハ當該官術學校ニ於ケル屠獸及屠肉ノ検査ヲ掌ル

第七條 官術學校附獸醫ハ常ニ軍馬ノ衛生ニ注意シ必要ト認ムル事項ハ隨時之レヲ當該獸醫部長ニ報告ス

第八條 獸醫室ニハ左ノ帳簿ヲ備フ

一 病馬録

二 處方箋綴

三 藥品及治療用消耗品出納簿

四 治療器械簿

- 五 診斷書綴
- 六 馬匹名簿寫
- 七 軍馬衛生誌
- 八 日記
- 九 傳票
- 十 送達簿
- 第九條 病馬錄ハ第一號書式處方箋ハ第二號書式藥品及治療用消耗品出納簿ハ第三號書式廢馬診斷書ハ第四號書式號馬診斷書ハ第五號書式撲殺診斷書ハ第六號書式ニ據リ調製スヘシ
- 第十條 馬軍衛生誌ニハ左ノ事項ヲ類別ニテ記載スヘシ
 - 一 糞穢、飲水、手入水浴、作業遊跡、蹄鐵、剔毛、剪毛、馬具、厩舍、氣象、補充馬匹、廢後馬匹、馬匹検査
 - 一 疾病並ニ治療獸醫協助、號廢馬匹、屍體剖檢
 - 一 行軍及演習
- 第十一條 毒藥格納ノ鍵ハ藥室ノ鍵ト共ニ退出ノ時高級ノ宿直員ニ預託スヘシ
- 第十二條 本規則ノ履行ハ高級獸醫擔任シ下級者之レヲ補佐ス
- 附則
- 第十三條 在臺灣憲兵隊附獸醫ノ服務ハ本規則ニ準據シ其ノ職務上所在地所管ノ守備混成旅團獸醫部長ノ監督ヲ受ク
(書式略ス)

第三十一節 編修官

● 陸軍編修官官制

明治二十三年六月勅令第八十九號

朕陸軍編修官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍編修官官制

- 第一條 兵要戰史地誌政表編修ノ業務ニ從事セシムル爲メ陸軍編修官ヲ設ク
 - 第二條 陸軍編修官ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其業務ニ關シテハ參謀總長ノ指揮監督ヲ承ク
 - 第三條 陸軍編修官ヲ分テ陸軍編修及陸軍編修書記トス
 - 第四條 陸軍編修ハ委任トシ陸軍編修書記ハ判任トス
 - 第五條 陸軍編修官ノ定員ハ左ノ如シ
- 編修 四人
編修書記 十四人

●第三十二節 測量官

●陸地測量官官制

明治三十二年三月
勅令第百三十四號

朕陸地測量官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸地測量官官制

第一條 陸地測量ノ業務ニ從事セシムル爲メ陸地測量官ヲ設ク

第二條 陸地測量官ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其業務ニ關シテハ陸地測量部長ノ指揮監督ヲ承ク

第三條 陸地測量官ヲ分テ陸地測量師及ヒ陸地測量手トス

第四條 陸地測量師ハ奏任トシ陸地測量手ハ判任トス

第三十三節 監獄官

● 陸軍監獄官官制

明治二十六年十月
勅令第百四十二號

朕陸軍監獄官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍監獄官官制

第一條 陸軍監獄ニ左ノ職員ヲ置ク

陸軍監獄長

陸軍監獄書記

陸軍監獄看守長

陸軍監獄看守

第二條 監獄長ハ奏任トシ監獄書記及監獄看守長ハ判任トシ監獄看守ハ判任官待遇トス

第三條 監獄長ハ衛戍司令官若クハ屯田兵司令官ニ隸シ監獄ノ事務ヲ掌理ス

第四條 監獄長ハ陸軍懲罰令ニ定ムル所ニ從ヒ監獄所屬員ヲ懲戒ス

第五條 監獄書記ハ監獄長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條 監獄長事故アルトキハ上席監獄書記其ノ事務ヲ代理ス

第七條 監獄看守長ハ監獄長ノ命ヲ受ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ監獄看守ヲ指揮監督ス

第八條 監獄看守ハ監獄看守長ノ命ヲ受ケ看守、護送及門衛等ノ事ニ服ス

第九條 監獄看守長及監獄看守職務ニ服スルトキハ刀ヲ帶ビ制服ヲ着ス

第十條 監獄内ノ衛生事務ハ其ノ地所在ノ衛戍病院附軍醫及看護長ヲシテ之ヲ管掌セシム但札幌ニ在
テハ屯田兵軍醫部附軍醫ヲシテ之ヲ管掌セシム

附則

第十一條 本令施行前ヨリ陸軍監獄ニ職ヲ奉スル下士卒ハ本令施行ノ日ヲ以テ現役満期トス

下士ニシテ服役年數七年未滿ノ者ハ豫備役ニ七年以上十二年未滿ノ者ハ後備役ニ服セシム但明治二十四年勅令第百八十七號施行以前ニ任セラレタル軍吏部下士ニシテ服役九年未滿ノ者ハ豫備役ニ九年以上十二年未滿ノ者ハ後備役ニ服セシム

第十二條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

本令中監獄看守ニ係ル規程ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

● 第三十四節 高等官衙副官

● 陸軍高等官衙副官條例 明治二十二年五月勅令第三十三號

改正 ● 明治二十五年一月 勅令第八號 ● 明治二十八年五月 勅令第六十六號

朕陸軍高等官衙副官條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍高等官衙副官條例

第一條 陸軍高等官衙副官ハ各所屬官衙ノ事務官トシ且ツ場合ニ依リ命令傳達ニ任スルモノトス

第二條 高等官衙副官ト稱スルモノ左ノ如シ

- 一 陸軍省副官
- 二 陸軍參謀本部副官
- 三 監軍部副官
- 四 監軍部各監副官
- 五 近衛副官
- 六 師團副官
- 七 要塞副官
- 八 旅團副官
- 九 屯田兵副官

第三條 高等官衙副官ハ陸軍大學校ヲ卒業シタル適任ノ將校ニシテ卒業後一箇年以上隊附服務ヲナシタルモノ及全軍中才能兼ニ秀タル將校ニシテ其職務ニ適任ナル者ヨリ補充ス

第四條 各高等官衙副官ハ各其奉職スル官衙ノ條例ニ於テ定ムル所ニ據リ事務ニ服ス

第三十五節 通譯生

● 陸軍通譯生ニ關スル件 明治二十九年九月勅令第三百六號

朕陸軍通譯生ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 外國語ヲ通譯スルノ必要アル陸軍官衙及各部ニ於テハ判任官定員以內ヲ以テ陸軍通譯生ヲ置

クコトヲ得

第二條 陸軍通譯生ハ判任トス

第三條 陸軍通譯生ハ文官任用令ノ規程ニ依ラヌ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

陸軍將校生徒試験委員條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第三十六節 將校生徒試験委員

陸軍將校生徒試験委員條例

陸軍將校生徒試験委員條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 陸軍將校生徒試験委員ハ將校生徒ノ召募試験ニ任ヌルモノニシテ之ヲ分テ常置委員及臨時委員ノ二トス

第二條 常置委員ハ之ヲ教育總監部ニ置キ士官候補生、地方幼年學校生徒及一年志願兵志願者ノ召募試験格並試験問題其ノ他試験ニ關スル事項ヲ調査立案シ士官候補生ノ志願書類ヲ審査シ且士官候補生及地方幼年學校生徒召募試験ノ成績ヲ調査スルモノニシテ其ノ組織左ノ如シ

常置委員長
常置委員主事

第三條 常置委員長及委員ハ他ニ本職アル者ヲ以テ兼補シ主事ハ之ニ專補ス但シ主事ニハ豫備後備役ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得

第四條 常置委員長ハ教育總監ニ隸シ委員以下ヲ統督シ試験ノ事ニ關シテハ教育總監ニ對シ責ニ任ヌ
第五條 常置委員ハ試験問題ノ起草並ニ試験成績ノ調査ヲ分擔ス
第六條 常置委員主事ハ試験ニ關スル一切ノ事務ヲ處理シ委員長ニ對シ事務整理ノ責ニ任ヌ
第七條 常置委員主事ノ下ニ書記トシテ判任文官ヲ置ク

第八條 教育總監ハ常置委員長ノ具申ニ依リ常置委員ノ外所管ノ將校同相當官陸軍教授到任文官ヲシテ試験事務ヲ補助セシムルコトヲ得

第九條 臨時委員ハ各検査場ニ就キ試験ヲ實施スルモノニシテ其都度各師團長部下將校團長若クハ佐官中ヨリ所要ノ人員ヲ選シテ之ヲ命ス

但第一師團長ハ近衛師團長ニ協議シ近衛師團ノ將校團長若クハ佐官若干ヲ臨時委員ニ加フルコトヲ得

臨時委員ハ試驗實施ノ事ニ關シテハ師團長ニ對シ責ニ任ス

第十條 師團長ハ前條臨時委員ノ外受験者ノ數ニ應シ部下大中尉ニ命シ試験ノ事務ヲ補助セシムルコトヲ得

但第一師團長ハ近衛師團長ニ協議シ近衛師團ノ大中尉若干ヲ補助員ニ加フルコトヲ得

第十一條 臨時委員ハ書記トシテ准士官下士若干ヲ使用スルコトヲ得

第十二條 師團長ハ試驗實施ノ事ニ關シテハ教育總監ニ對シ責ニ任ス

● 第三十七節 定員外軍人

● 定員外ト爲スヲ得ヘキ陸軍軍人ニ關スル件 明治二十七年九月勅令第百六十三號

朕陸軍軍人ニシテ動員セシ部隊若クハ戰時特設部隊附ヲ命セラレタル者ヲ定員外ト爲スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍人ニシテ本職ノ儘動員セシ部隊若クハ戰時特設部隊附ヲ命セラレタル者ハ本屬官銜及團隊ノ必要ニ應シ之ヲ定員外トシ其補缺ヲ爲スコトヲ得